

第272回
地震防災対策強化地域判定会
委員打合せ会

記者レクチャー資料



平成21年1月26日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次・概況

【地震活動】

1 頁 2008 年 12 月の活動

想定震源域及びその周辺で発生した $M \geq 3.0$ の地震は、

2 日 駿河湾	深さ 12km M3.0
14 日 神奈川県西部	深さ 26km M3.1

南関東における $M \geq 3.5$ の地震は、

1 日 茨城県南部	深さ 44km M3.6
14 日 茨城県沖	深さ 45km M4.4
20 日 茨城県沖	深さ 55km M4.2
31 日 千葉県東方沖	深さ 43km M4.7

また、静岡県西部（森町・掛川市境界付近）の地殻内の、2007 年 11 月から地震活動が見られる領域で、2008 年 12 月 29 日前後にまとまった地震活動（最大 M2.9）があった。

2 頁 2008 年 1 月の活動（1 日～21 日）

想定震源域及びその周辺で発生した $M \geq 3.0$ の地震は、なかった。

南関東における $M \geq 3.5$ の地震は、

17 日 茨城県沖	深さ 48km M3.5
18 日 茨城県北部	深さ 57km M3.9

その他の地域で目立った地震は、

5 日 八丈島東方沖	深さ 74km M4.5
------------	--------------

3-4 頁 発震機構（最近 2 ヶ月）

東海地方での地震は、

2:12 月 2 日 駿河湾の地震は、東西方向に圧力軸をもつ型。

4:12 月 14 日 神奈川県西部の地震は、西北西－東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型。

5:12 月 16 日 神奈川県西部の地震は、北東－南西方向に張力軸をもつ正断層型。

6:12 月 29 日 静岡県西部の地震は、西北西－東南東方向に圧力軸をもつ横ずれ断層型。

7:12 月 29 日 静岡県西部の地震は、西北西－東南東方向に圧力軸をもつ横ずれ断層型。

8:12 月 29 日 静岡県西部の地震は、西北西－東南東方向に圧力軸をもつ横ずれ断層型。

[主な地震活動]

5 頁 静岡県西部の地震活動（地殻内）

2007 年 11 月から地震活動が続いている静岡県西部（森町・掛川市境界付近）で、2008 年 12 月 29 日前後にまとまった地震活動が発生した（最大 M2.9）。

[活動指数等の資料]

6-9 頁 活動指数

静岡県中西部：地殻内は、高い～ほぼ平常(8～6)。フィリピン海プレート内は高い～ほぼ平常(8～5)。

M2.0 以上の地震（7 頁）は、地殻内は高い(8～7)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(6)。

愛知県：地殻内はほぼ平常(5～4)。フィリピン海プレート内もほぼ平常(3)。

M2.0 以上の地震（8 頁）は、地殻内がやや高い～ほぼ平常(7～6) で、フィリピン海プレート内はほぼ平常(3)。

浜名湖：東側は低い～やや低い(0～2)。西側はやや低い～ほぼ平常(1～3)。全域では低い～やや低い (0～2)。

駿河湾：平常(4)。

10-15 頁 静岡県中西部

(最近の 90 日間)

[地殻内]

2008 年 10 月終わりから 11 月前半にかけて、まとまった地震活動があり、活発であった。これは主に、駿河湾（静岡県駿河区沖）と、森町・掛川市境界付近での地震活動による。2008 年 12 月終わりには再び森町・掛川市境界付近の地震活動が活発になった。

[フィリピン海プレート内]

10 月半ば頃から 11 月半ば頃にかけて、単発の地震発生がやや多かった。

(1997/01/01～2009/1/21 M \geq 1.1)

[地殻内]

2007 年 11 月からの静岡県西部の地震活動活発化は、1997 年以降では珍しい規模の回数増加であった（左下）。現在、静岡県中西部の地殻内では、まとまって発生する地震活動が多い状態である（左下および左中の時空間分布図）。

クラスタ除去後の地震回数積算図（右下）を見ると、2000 年半ばまでは傾きが急で活発、その後 2005 年半ばまではやや傾きが緩やかで低調、2005 年半ば以降は活発、という傾向が見られる。

その地震活動変化は、長期的スロースリップの進行・停滞に対応しているように見える。

(1997/01/01～2009/1/21 M \geq 2.0)

[地殻内]

2007 年頃から、M2.0 以上の地震活動も活発である。1997 年以降では最も活発な状態と言える。長期間継続する地震活動が増加し、そこで発生する地震の規模もやや大きくなっていることによると考えられる。

(1997/01/01～2009/1/21 M \geq 1.1)

[フィリピン海プレート内]

1997 年から見た地震活動状況に特段の変化はないが、2008 年終わり頃にやや地震発生が多くなった。現在は落ち着きつつある（一番下の地震回数積算図のグラフ右端）。一時的な地震活動活発化かどうか、推移を見る必要がある。

(1997/01/01～2009/1/21、M3.5 以上は 1987/09/01～2009/1/21)

[フィリピン海プレート内]

M3.5 以上の地震発生回数を見ると、2001 年後半ごろから少ない。そのような状況の中、2006 年 12 月 16 日に静岡県中部で M4.0、2007 年 8 月 31 日に静岡県西部で M4.3、さらに 2008 年 1 月 20 日に静岡県西部で M4.0 の地震が発生した。1998 年後半～2000 年前半にも静穏な時期があった。

M2.0 以上では 2005 年半ば以降やや静穏であったが、2007 年に入って回復。

16 頁 浜名湖 (1995/01/01～2009/1/21 M \geq 1.1 : フィリピン海プレート内)

[東側] 2000 年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下していた。2007 年 5 月～9 月は一旦回復したが、10 月以降は再び低下した。そのような状況の中、2008 年 2 月 1 日に浜名湖の北東で M3.1 の地震が発生し、2008 年 5 月 17 日から 22 日にかけてはややまとまった地震活動が浜名湖南の東岸・西岸で発生して、中期活動指数（180 日間）はほぼ平常の値に回復していた。最近地震活動が低調で、今期の中期活動指数（最近 180 日間）は低い 0 になっている。

[西側] 2006 年以降低調であるが、2008 年に入り回復傾向。今期の中期活動指数（最近 180 日間）はやや低く 1 になっている。

17 頁 低周波地震活動とスロースリップ

2008年8月25日頃～9月4日、深部低周波地震活動の活発化(長野県南部～愛知県)と短期的スロースリップの発生が観測された。

18 頁 プレート境界周辺の地震活動

【地殻変動】

19 頁 歪計観測点配置図

20-26 頁 体積歪計

伊良湖及び蒲郡で2008年11月11日頃から14日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

これと同様の変化は、最近では2007年10月6日頃から12日頃、2008年3月2日頃から7日頃、2008年5月15日頃から19日頃にかけて観測された。

伊良湖及び蒲郡

2007年10月6日頃から12日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。この歪変化は、春野・佐久間・浜北の多成分歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

伊良湖 2008年3月2日頃から7日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

蒲郡 2008年5月15日頃から19日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

伊良湖及び蒲郡

2008年11月11日頃から14日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

27-36 頁 多成分歪計(掛川、春野、佐久間、本川根、浜北)

掛川、春野及び佐久間で、2008年11月11日頃から16日頃にかけて歪変化が観測された。これは短期的スロースリップに伴う歪変化の可能性がある。

短期的スロースリップに伴う歪変化は、最近では2007年9月26日頃から10月2日頃、2007年10月6日頃から12日頃、2008年1月1日頃から10日頃、5月15日頃から19日頃及び2008年8月25日頃から9月5日頃にかけて観測された。

春野、佐久間、本川根および浜北

2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

春野、佐久間および浜北

2007年10月6日頃から12日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

この歪変化は、伊良湖・蒲郡の体積歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

掛川、春野、佐久間及び本川根

2008年1月1日頃から10日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

春野及び佐久間

2008年5月15日頃から19日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

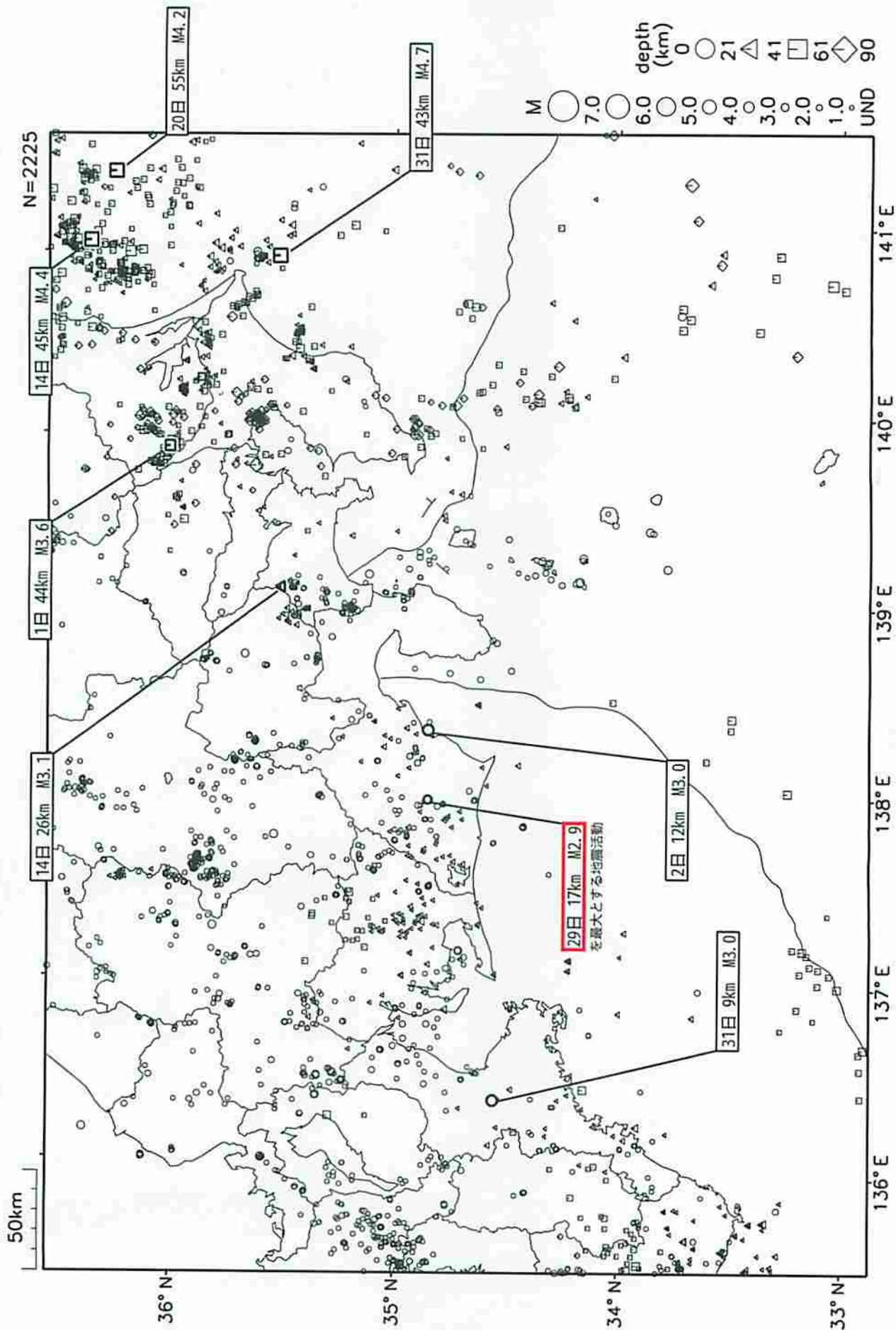
掛川、春野、佐久間、本川根及び浜北

2008年8月25日頃から9月5日頃にかけて短期的スロースリップに伴う歪変化が観測された。

掛川、春野及び佐久間

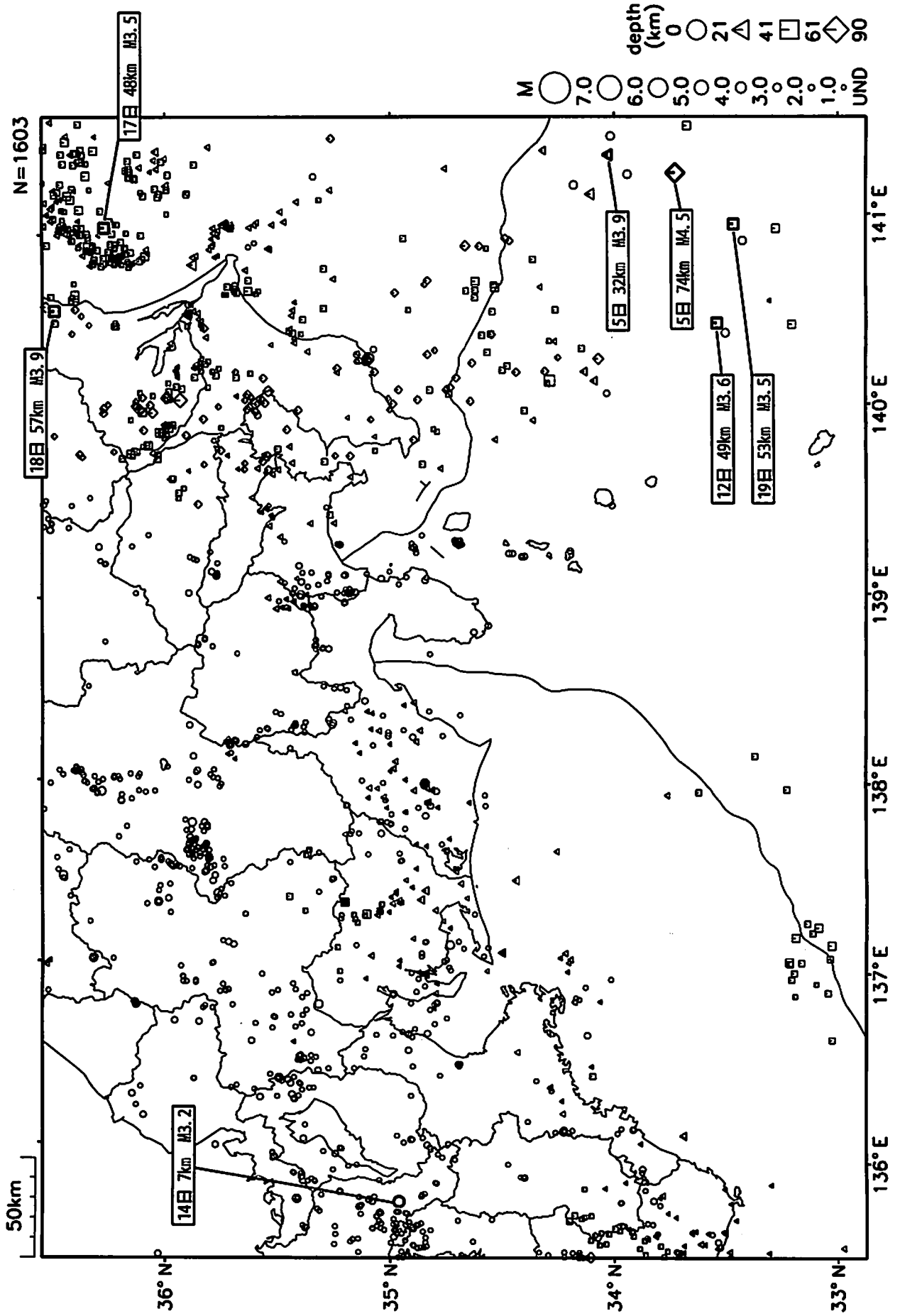
2008年11月11日頃から16日頃にかけて歪変化が観測された。

東海・南関東地域の地震活動 2008年12月



気象庁作成

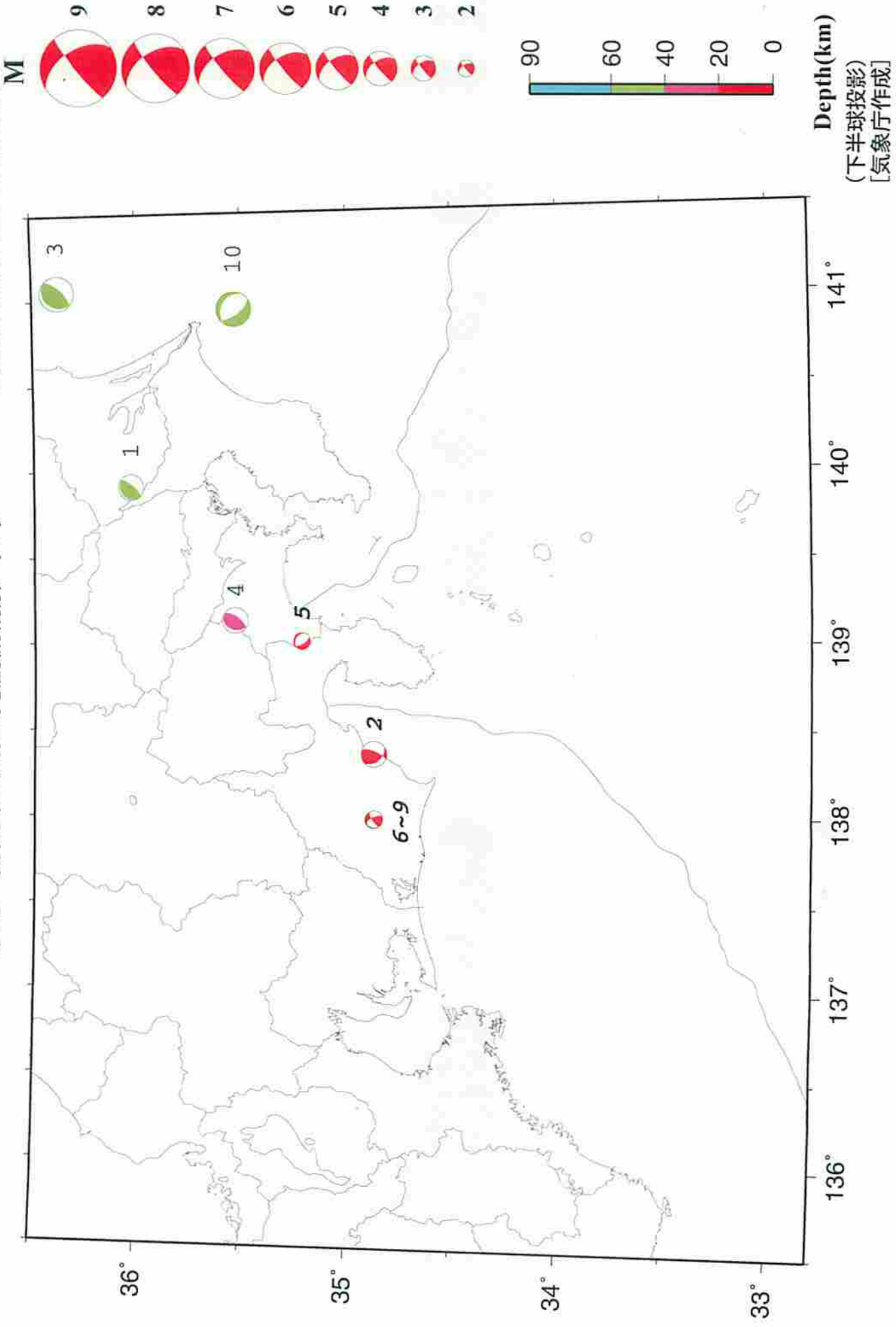
東海・南関東地域の地震活動 2009年1月(1日~21日)



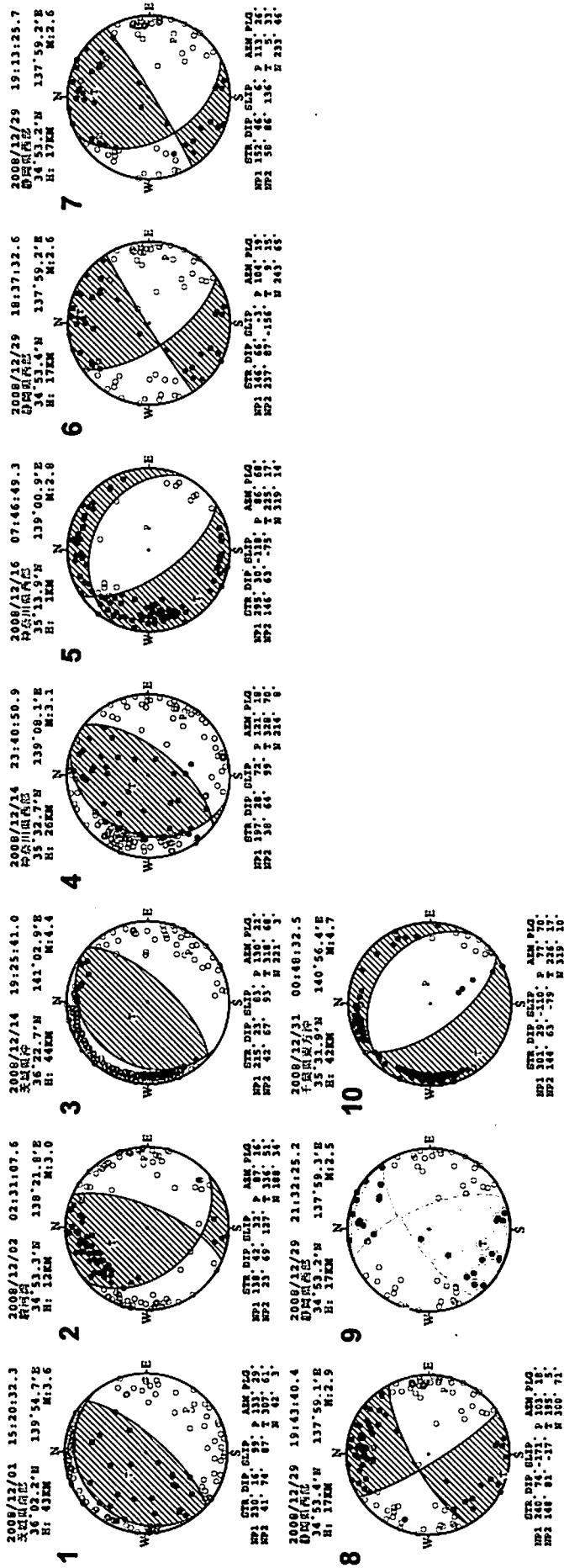
気象庁作成

東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period: 2008/12/01 00:00--2009/01/21 24:00



東海・南関東地域の発震機構解 (2)



(下半球投影)
[気象庁作成]

静岡県西部の地震活動

静岡県西部の地殻内で2007年11月12日頃から続いている地震活動（領域b）は徐々に収まりつつある。

これまでにこの地震活動では、M3.0以上の地震が16回、震度1以上を観測した地震が33回（うち最大震度3が1回、最大震度2が12回）発生している。これまでの最大規模の地震は、2008年1月27日に発生したM4.2（最大震度2）の地震で、発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

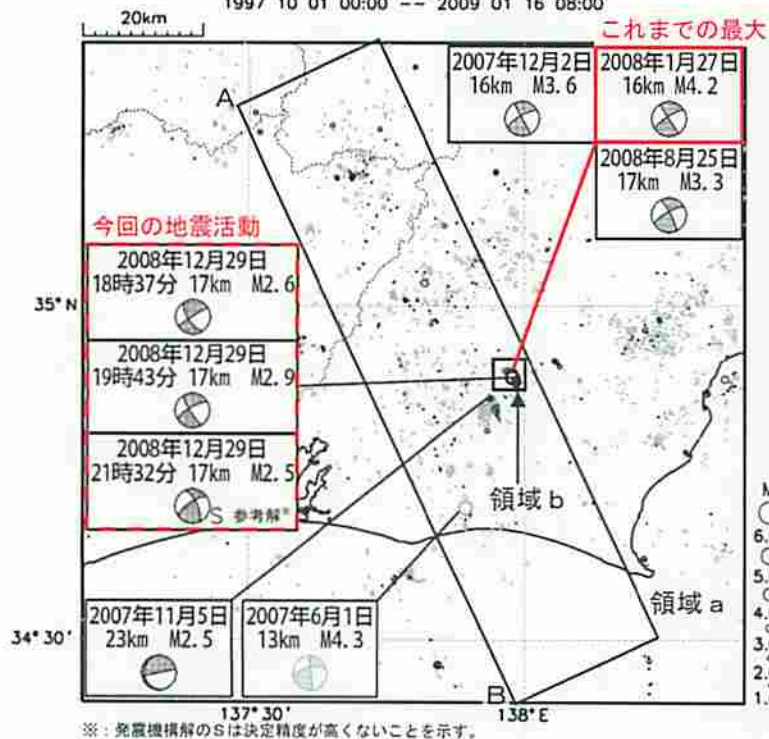
2008年12月29日にまとまった地震活動（最大は19時43分のM2.9、震度1以上の観測なし）が発生し、同日18時37分（M2.6）及び21時32分（M2.5）の地震により震度1を観測したが、数日以内にほぼ収まった。

領域b内の地震で震度1以上を観測したのは2008年8月25日（M3.3、最大震度2）以来である。

震央分布図（1997年10月以降、深さ25km以浅、M \geq 1.0）

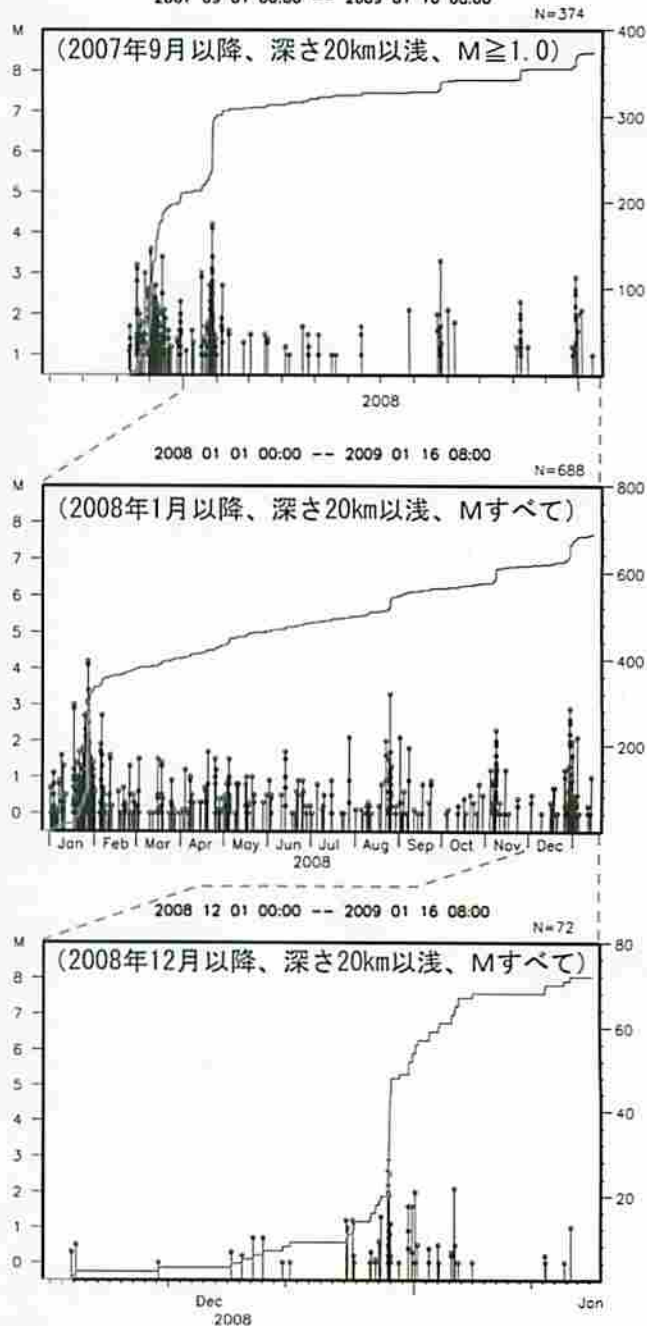
2007年11月以降の地震を濃く表示

1997 10 01 00:00 -- 2009 01 16 08:00

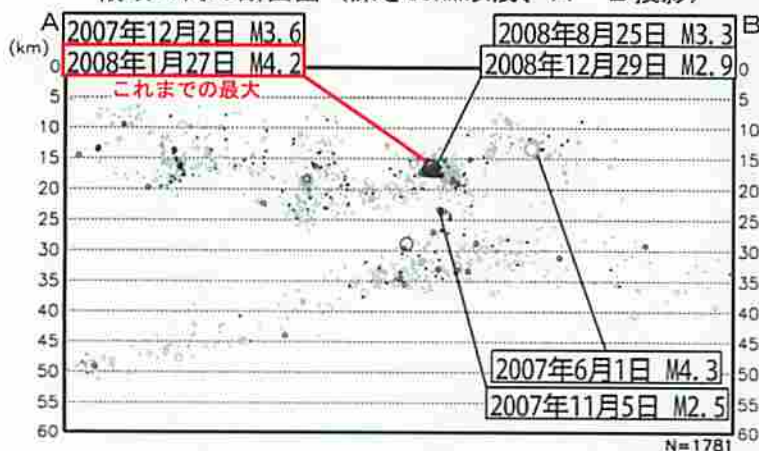


領域b内の地震活動経過図、回数積算図

2007 09 01 00:00 -- 2009 01 16 08:00



領域a内の断面図（深さ60km以浅、A-B投影）

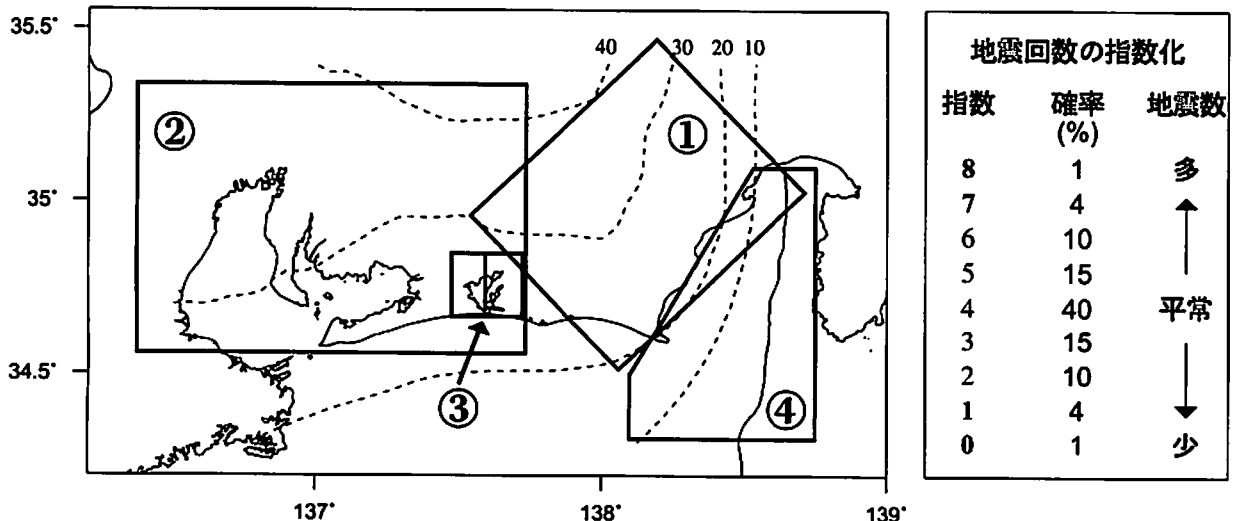


東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2009年1月21日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	5	4	3	3	2	2	4
短期地震回数 (平均)	10 (6.31)	7 (5.91)	14 (13.23)	11 (14.08)	1 (2.46)	2 (5.99)	1 (3.53)	5 (6.06)
中期活動指数	8	8	5	3	1	0	0	4
中期地震回数 (平均)	32 (18.93)	29 (17.74)	43 (39.68)	38 (42.24)	1 (4.93)	2 (11.99)	1 (7.06)	11 (12.12)

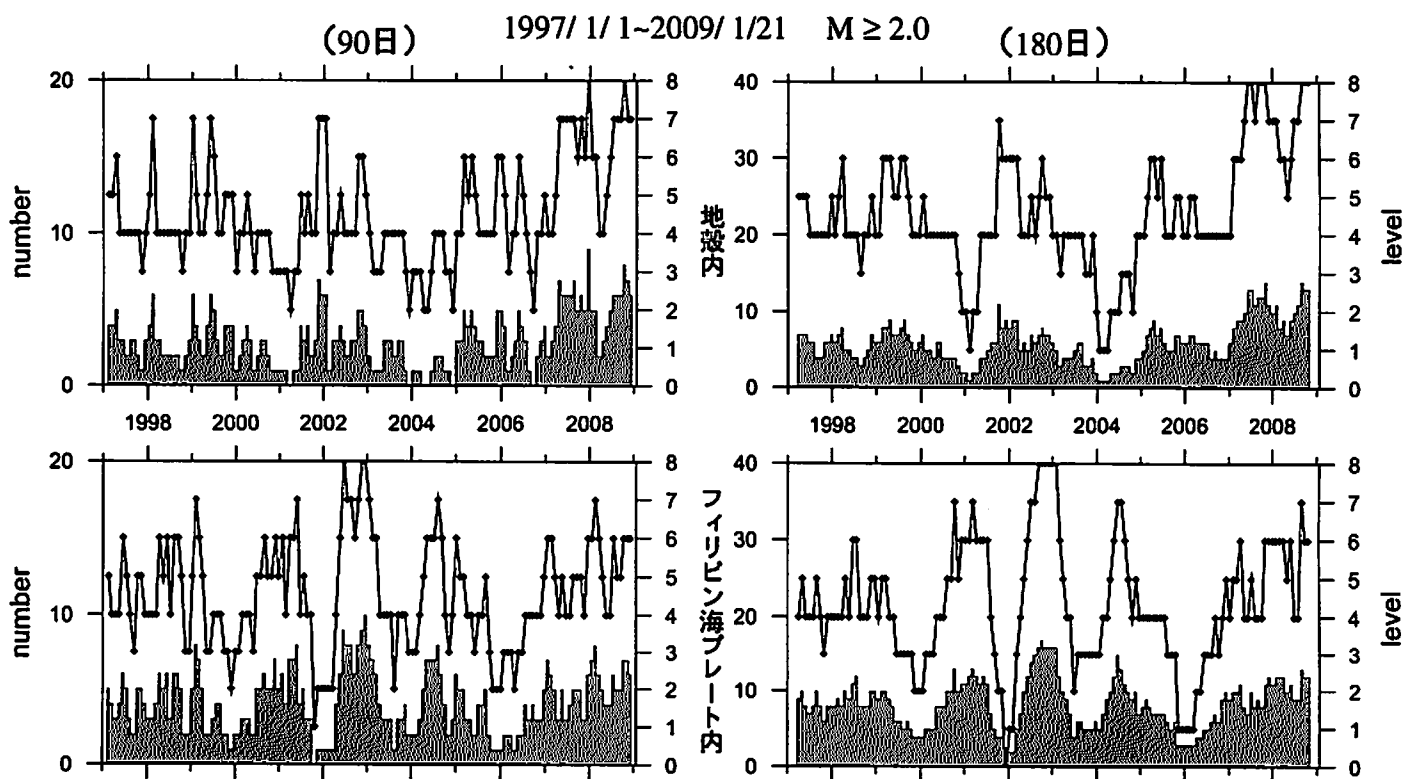
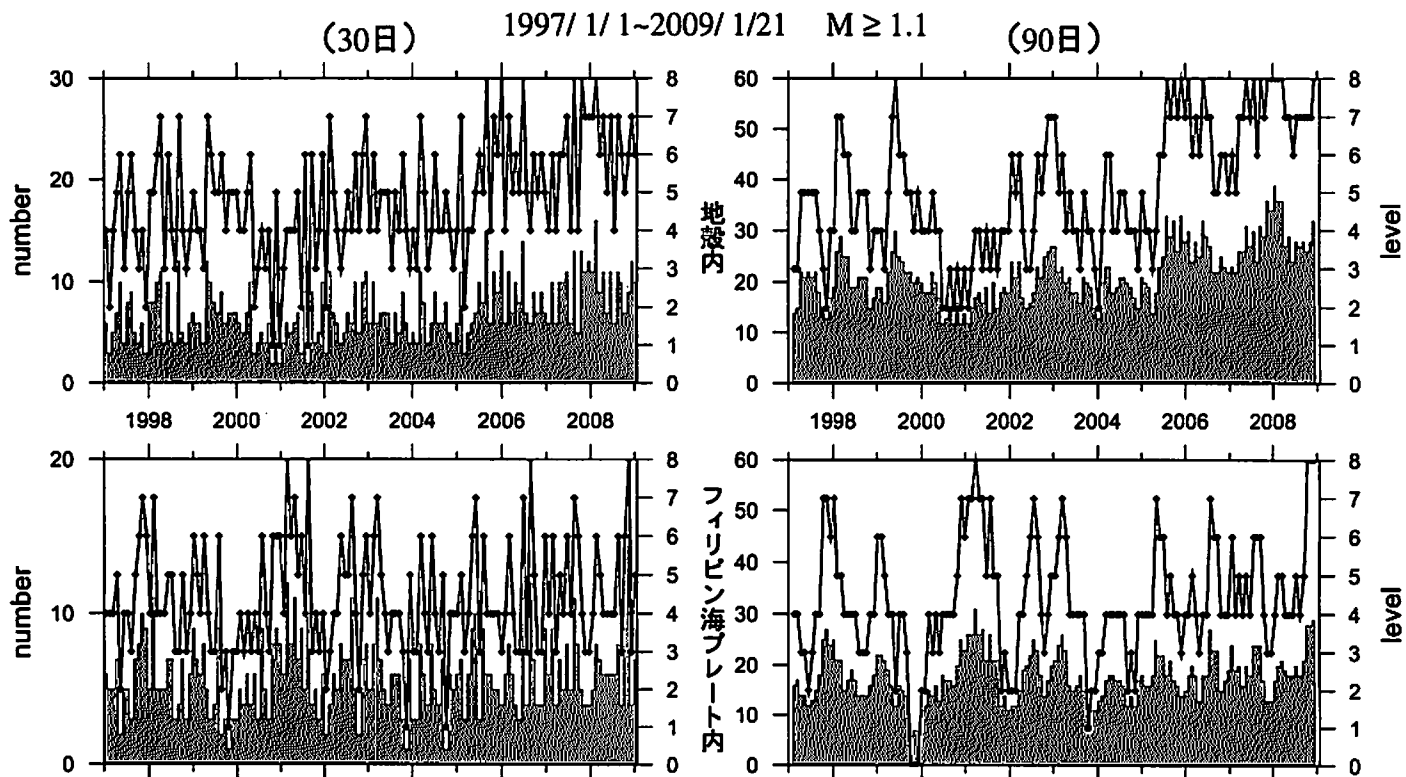
- * Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4
 - * クラスタ除去：震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。
 静岡県中西部、愛知県、浜名湖： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$
 駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$
 - * 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間
 浜名湖、駿河湾：短期90日間、中期180日間
 - * 基準期間： おおむね長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）発生前の地震活動を基準とする。
 静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、浜名湖：1998年－2000年（3年間）、
 駿河湾：1991年－2000年（10年間）
- 【各領域の説明】**
- ① 静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。
 - ② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。
 - ③ 浜名湖：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。
 - ④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。



* プレート境界の等深線を破線で示す。

地震活動指数の推移

① 静岡県中西部

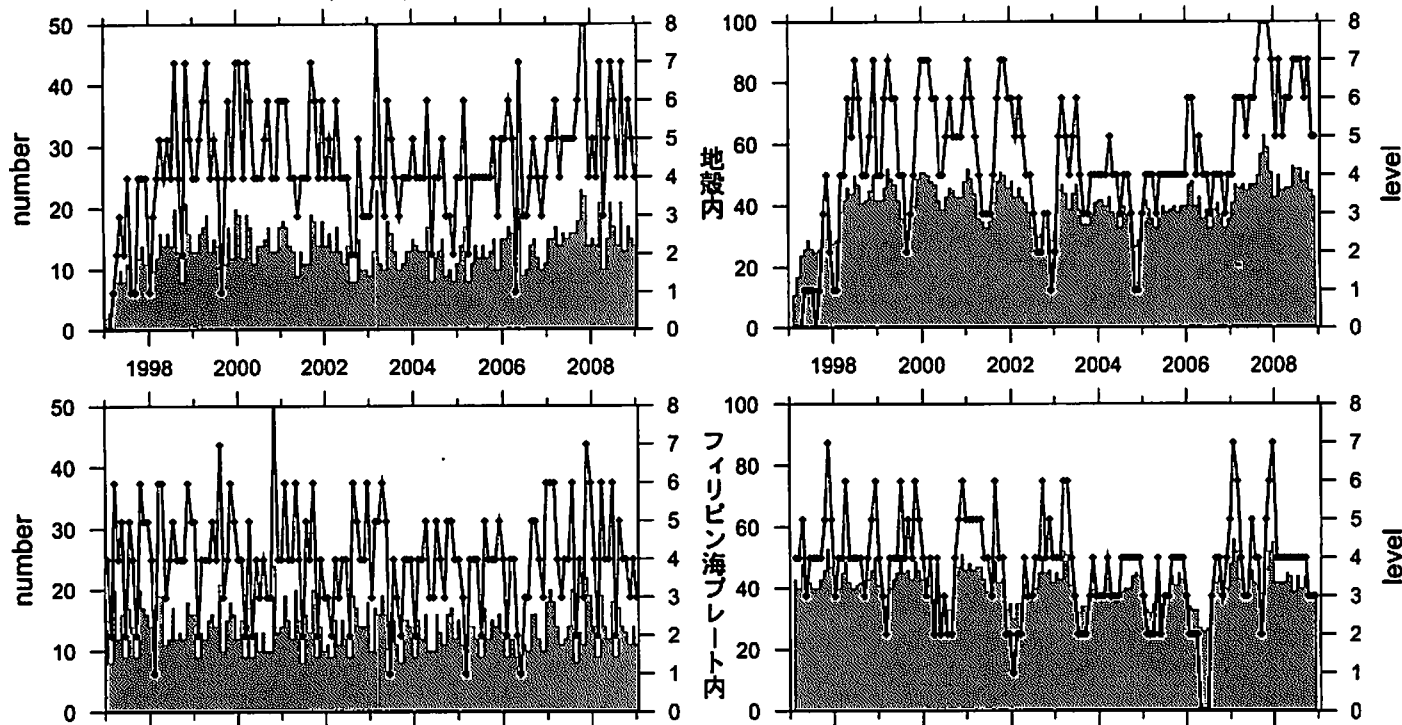


/ : 地震活動指数 (0-8)
 ■ : 地震回数 (クラスタを除く)

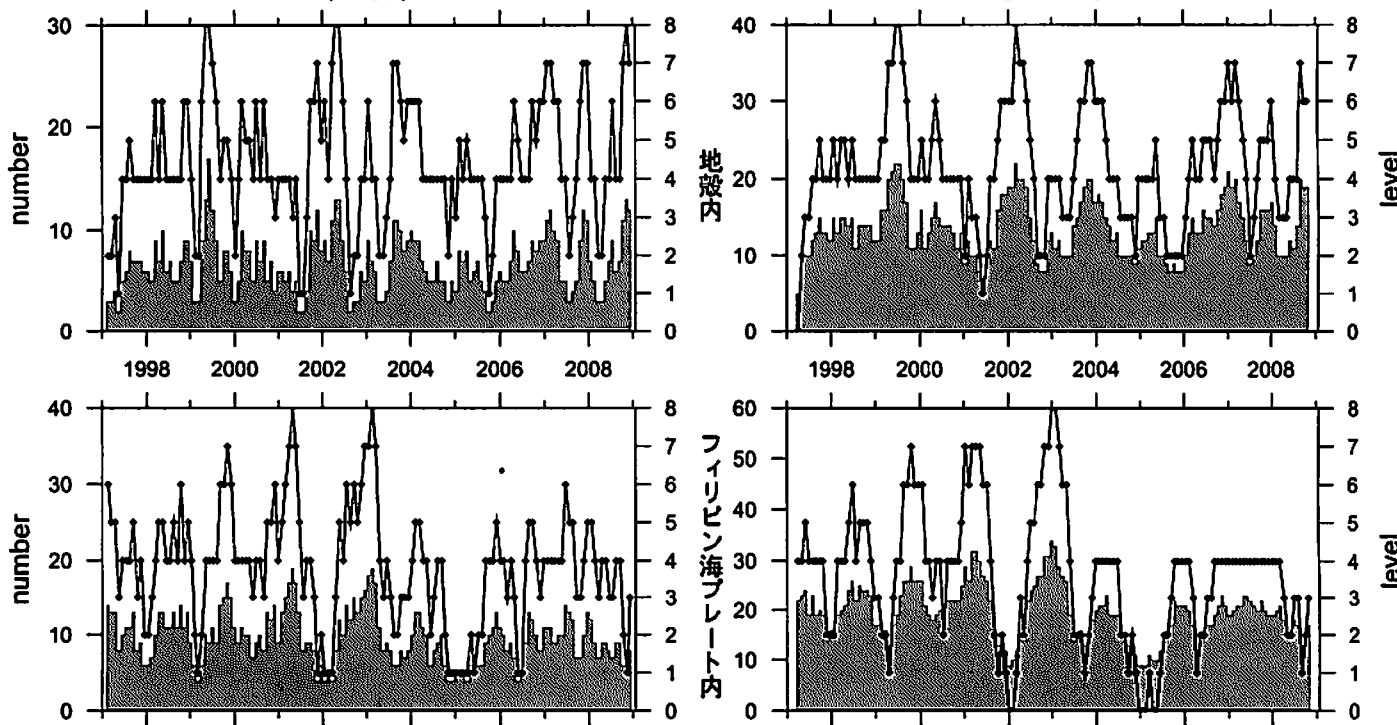
地震活動指数の推移

② 愛知県

(30日) 1997/1/1~2009/1/21 M ≥ 1.1 (90日)



(90日) 1997/1/1~2009/1/21 M ≥ 2.0 (180日)

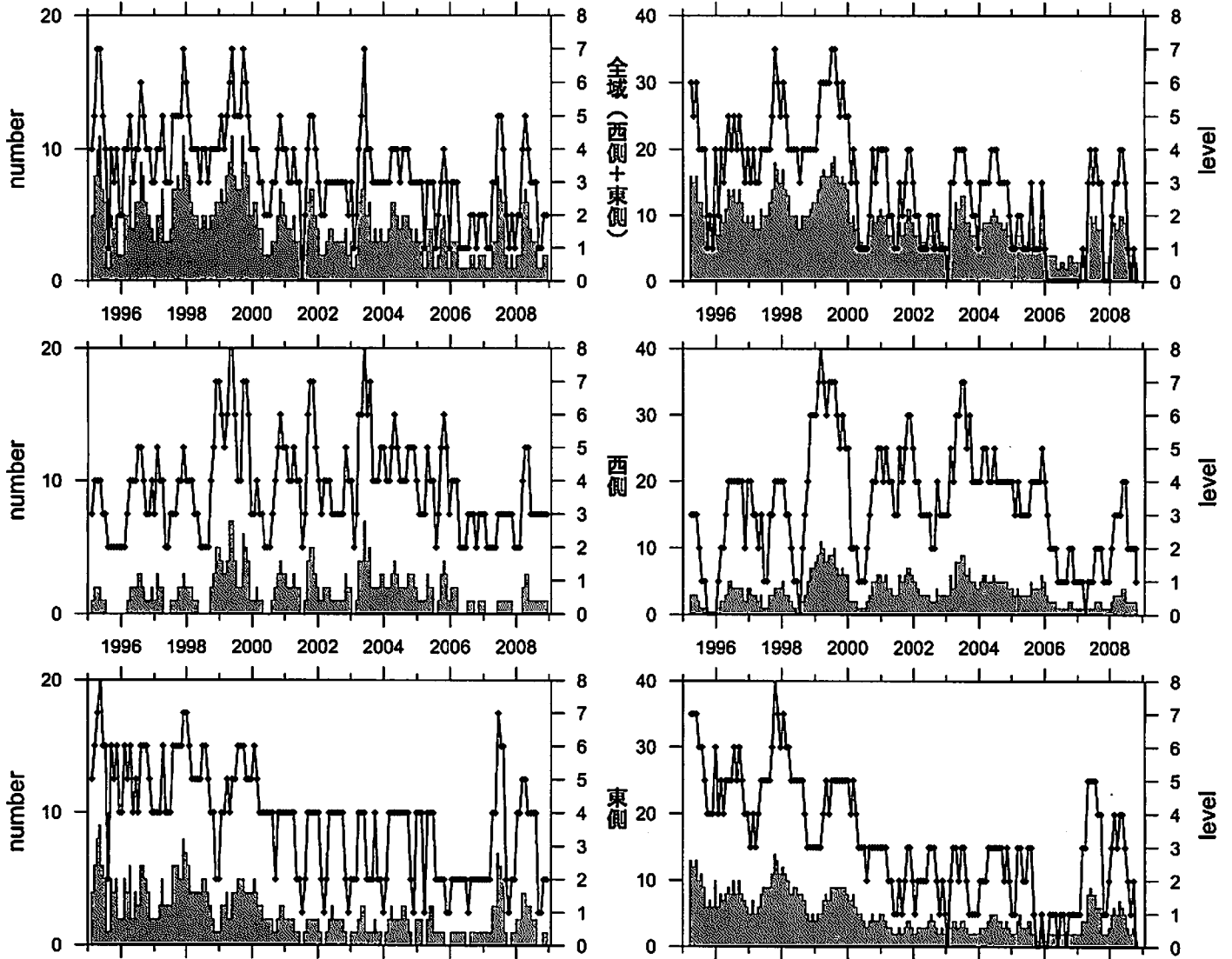


／ : 地震活動指数 (0-8)
 ■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

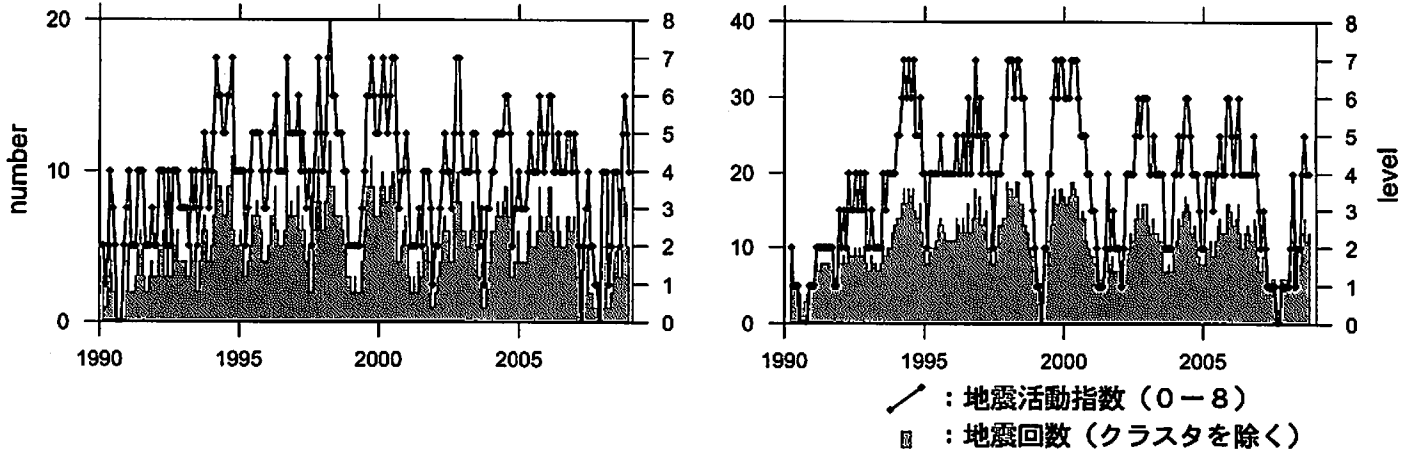
③ 浜名湖

(90日) 1995/1/1~2009/1/21 M ≥ 1.1 (180日)



④ 駿河湾

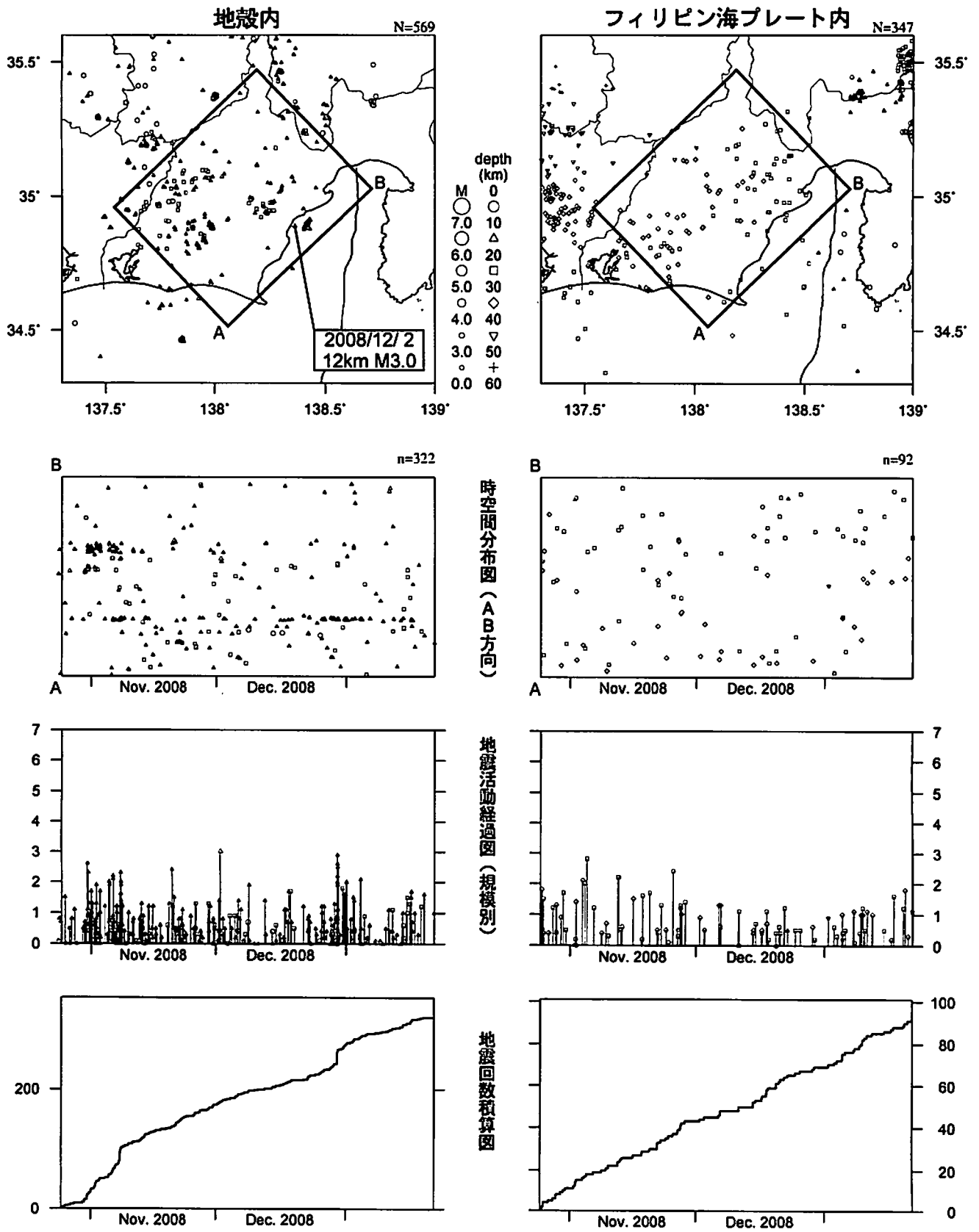
(90日) 1990/1/1~2009/1/21 M ≥ 1.4 (180日)



— : 地震活動指数 (0-8)
 ■ : 地震回数 (クラスタを除く)

静岡県中西部（最近90日）

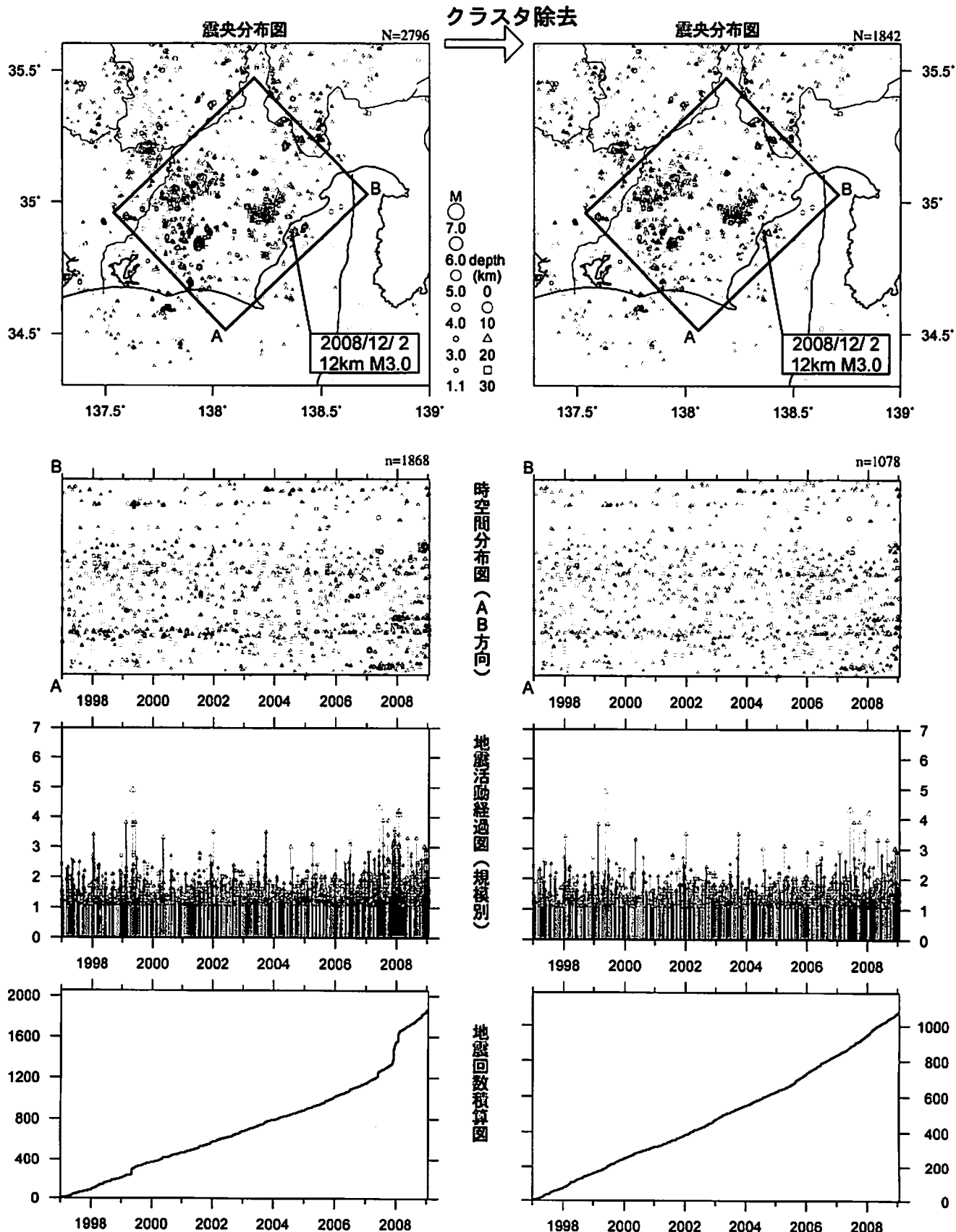
2008/10/24~2009/1/21 M ≥ 0.0 0 ≤ 深さ(km) ≤ 60



* 吹き出しはM≥3.0

地殻内では、2008年10月終わり～11月前半、及び12月終わりにまとまった地震活動があった。
 フィリピン海プレート内では、10月半ば頃から11月半ば頃にかけて単発の地震発生がやや多かったが、最近
 は落ち着いている。

静岡県中西部（地殻内） 1997/1/1~2009/1/21 M \geq 1.1



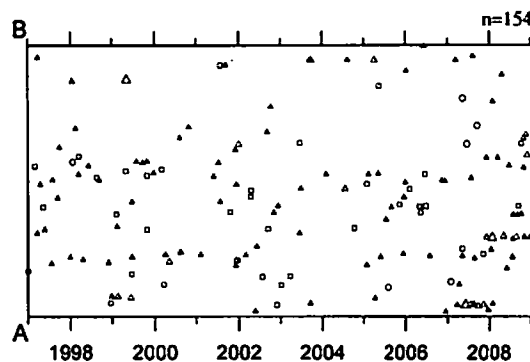
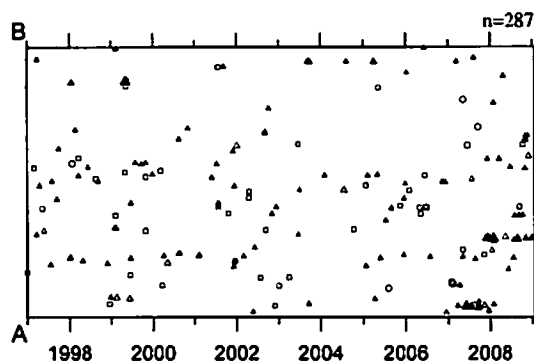
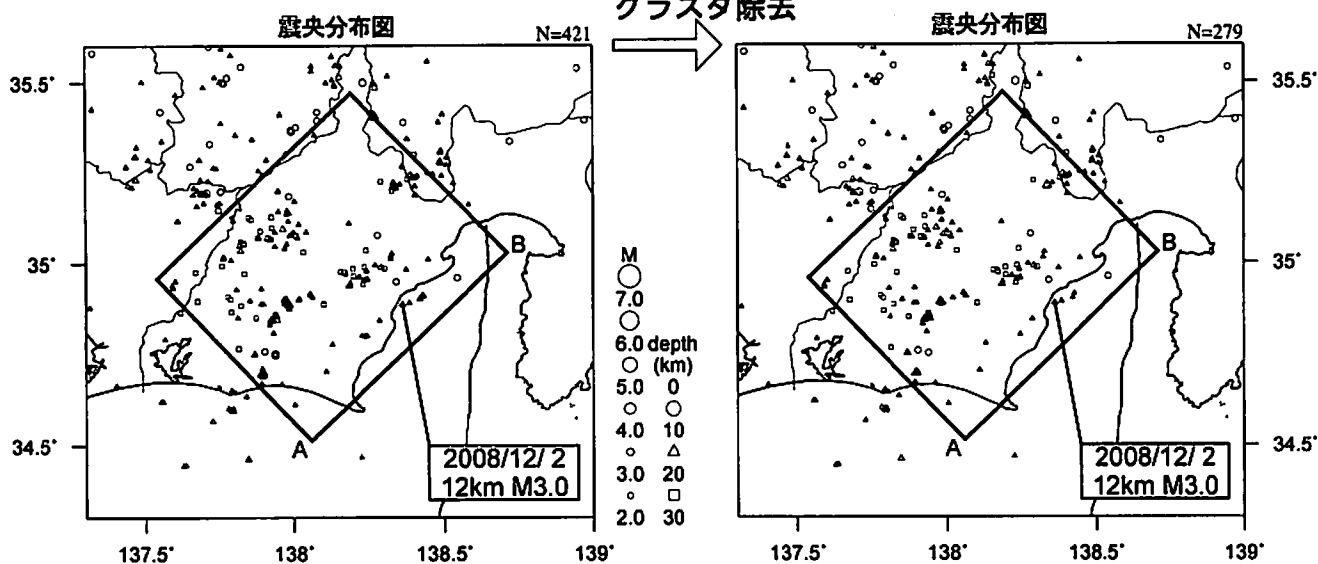
* 吹き出しは最近60日以内、M \geq 3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

静岡県西部の地震活動活発化は、1997年以降では珍しい規模の回数増加であった（左下）。現在、静岡県中西部の地殻内では、まとめて発生する地震活動が多い状態である（左下および左中の時空間分布図）。クラスタ除去後の地震回数積算図（右下）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急で活発、その後2005年半ばまではやや傾きが緩やかで低調、2005年半ば以降は活発、という傾向が見られる。

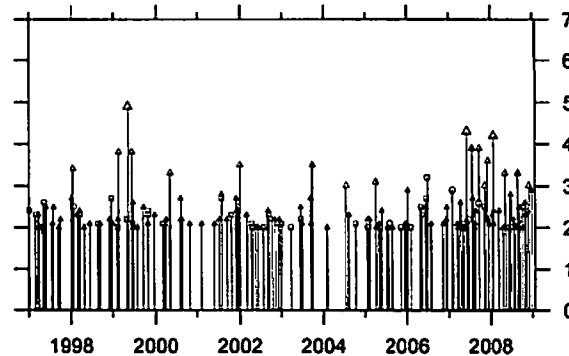
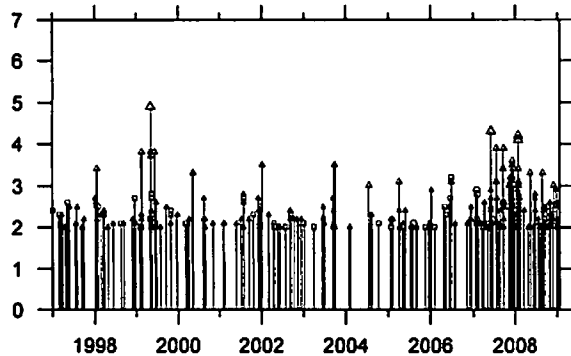
気象庁作成

静岡県中西部（地殻内） 1997/1/1~2009/1/21 M ≥ 2.0

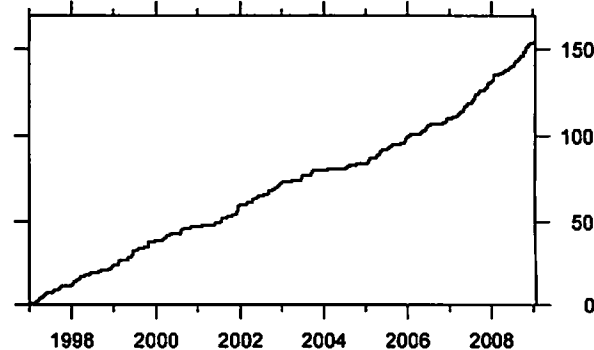
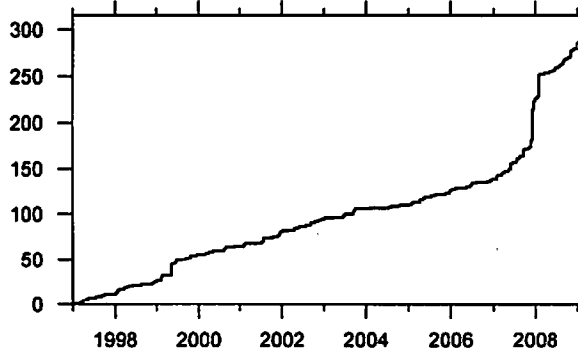
クラスター除去



時空間分布図 (A B 方向)



地震活動経過図 (規模別)



地震回数積算図

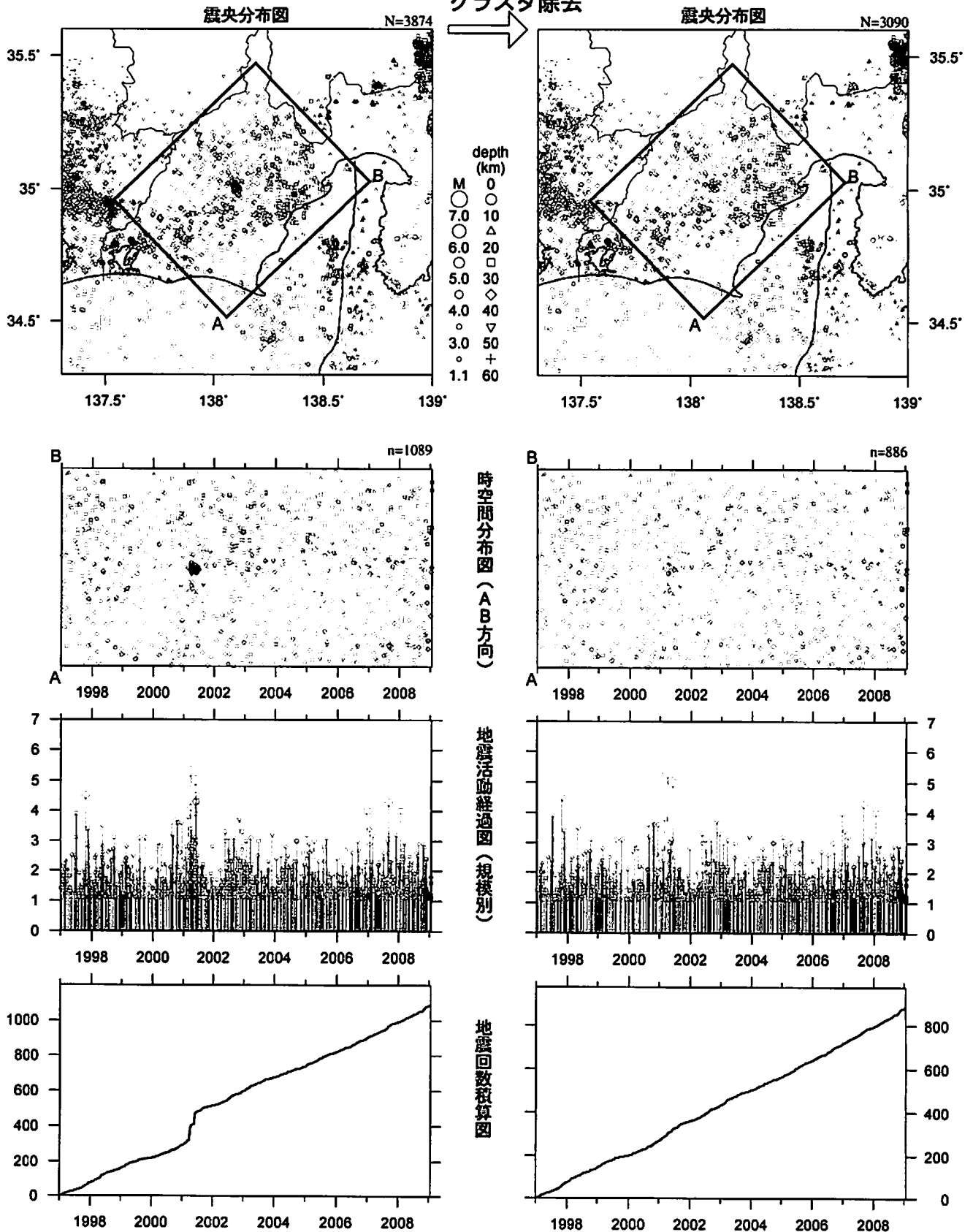
* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0

2007年頃からM2.0以上の地震活動も活発である。

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/1/1~2009/1/21 M \geq 1.1

クラスタ除去



* 吹き出しは最近60日以内、M \geq 3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

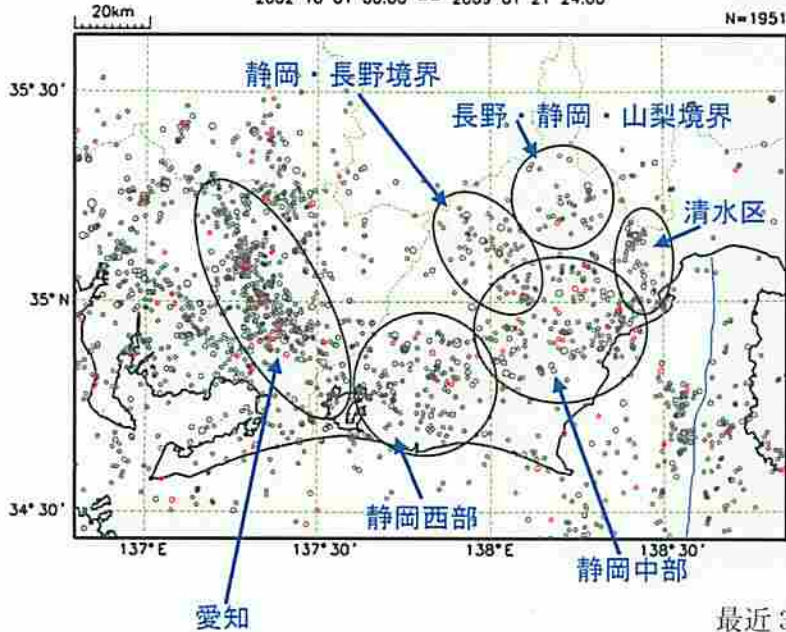
1997年から見た地震活動状況に特段の変化はないが、2008年終わりごろにやや地震発生が多くなった。現在は落ち着きつつある（一番下の地震回数積算図のグラフ右端）。一時的な地震活動活発化かどうか、推移を見る必要がある。

気象庁作成

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）の地震活動推移

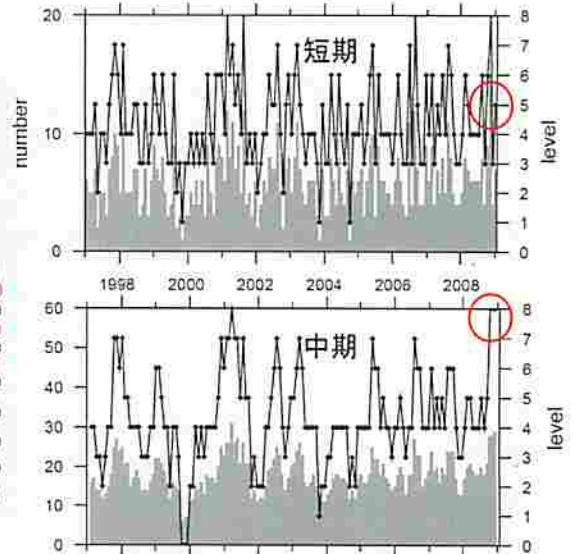
震央分布図

(2002年10月以降、フィリピン海プレート内のみ、M1.1以上)
2002 10 01 00:00 -- 2009 01 21 24:00



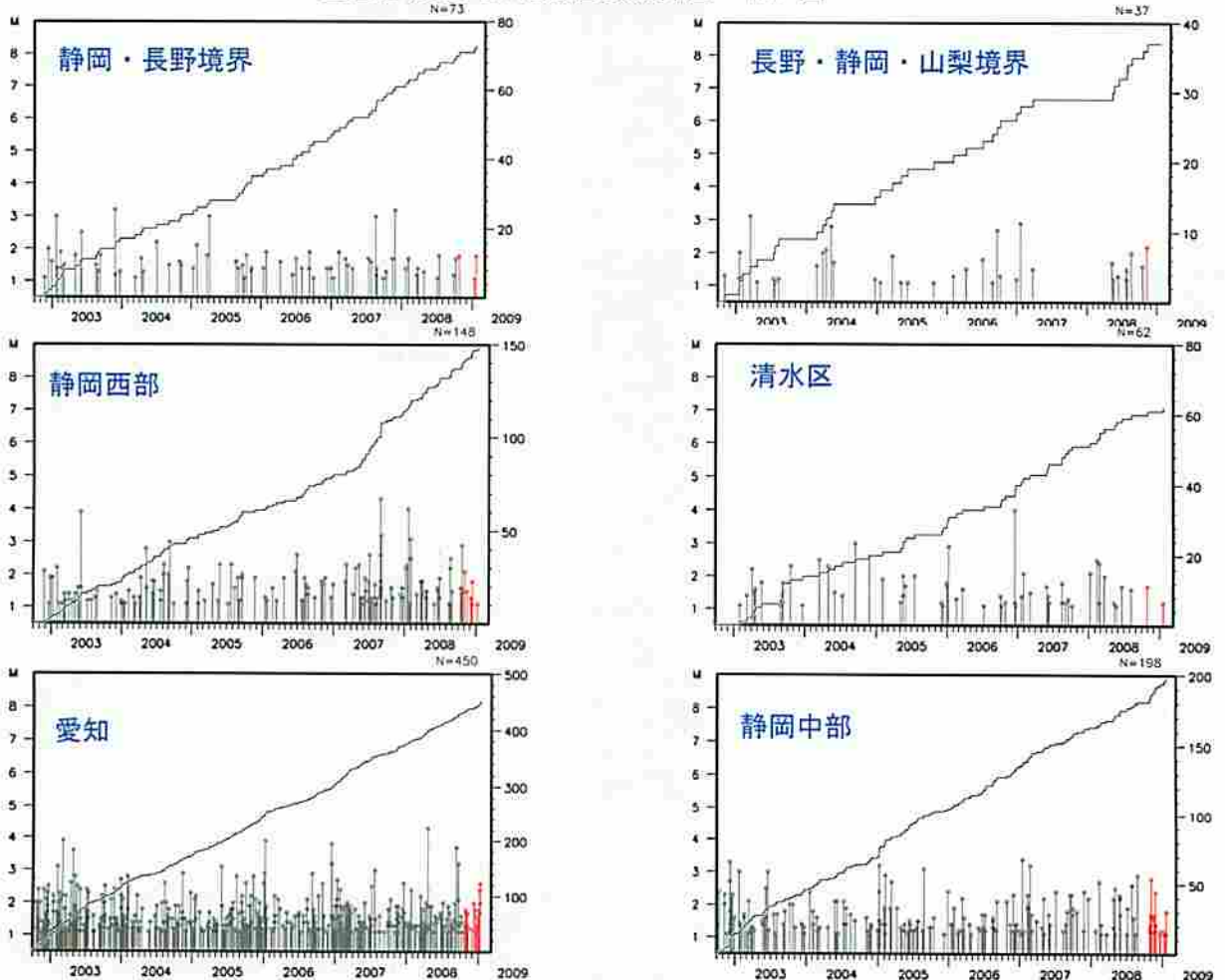
最近90日間に発生した地震を赤で表示

静岡県中西部プレート内の地震活動指数 (M1.1以上)



最近30日間 (短期) の地震活動指数はほぼ平常 (5) に戻っている。最近90日間 (中期) の指数は高いまま (8)。

上図各領域内の地震回数積算図・MT図



最近の静岡県中西部フィリピン海プレート内での地震活動は、既存の活動領域で散発的に発生。

静岡西部では2007年頃からやや活発。

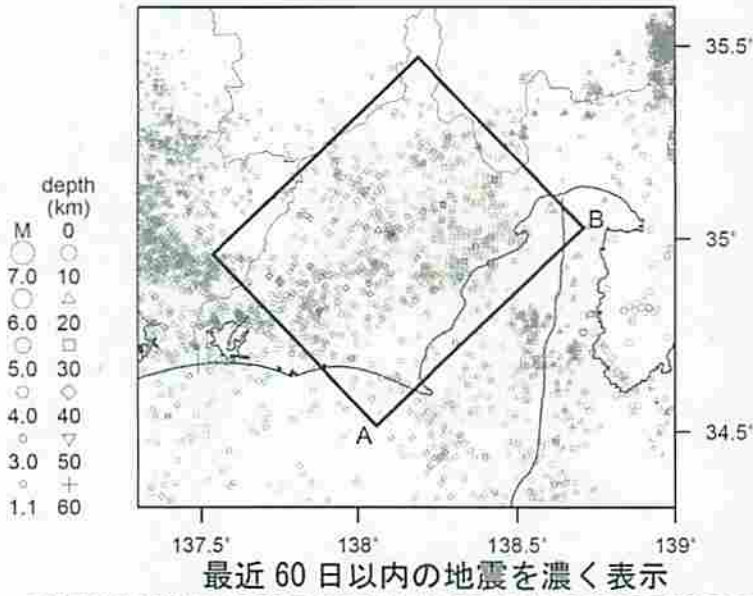
最近3ヶ月間で見ると、静岡西部・静岡中部で発生していたまとまった地震活動が 気象庁作成 収まりつつある。

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

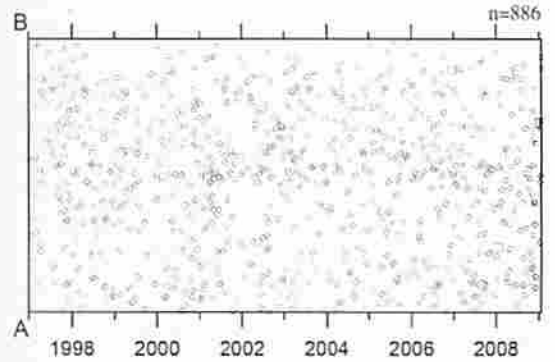
1997/1/1~2009/1/21

[M1.1 以上]

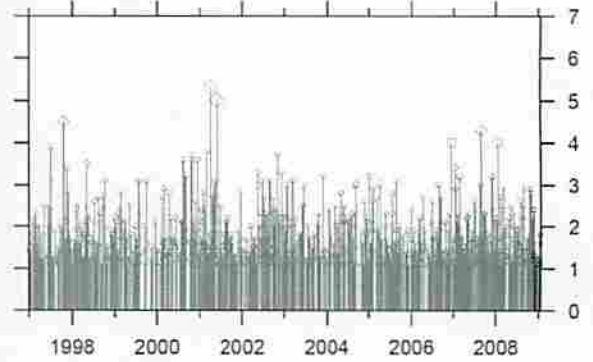
震央分布図（クラスタ除去）



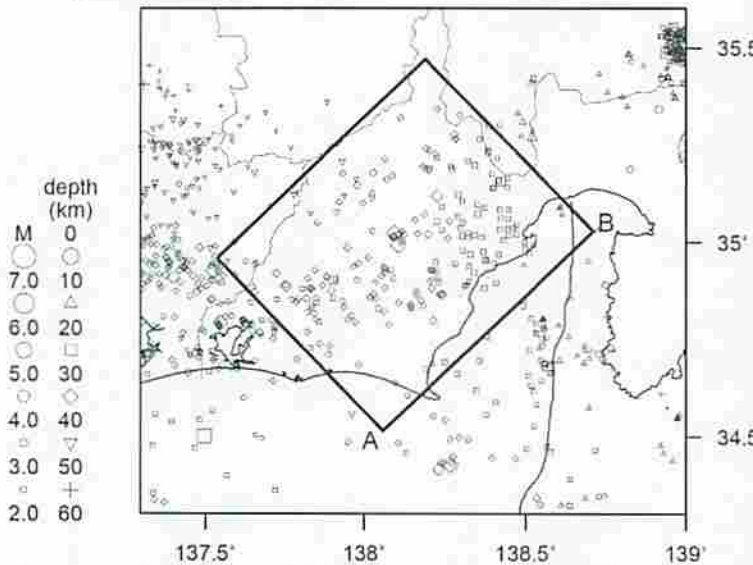
時空間分布図（A B 方向）



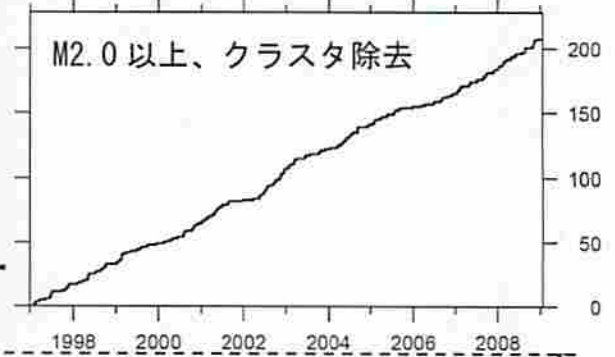
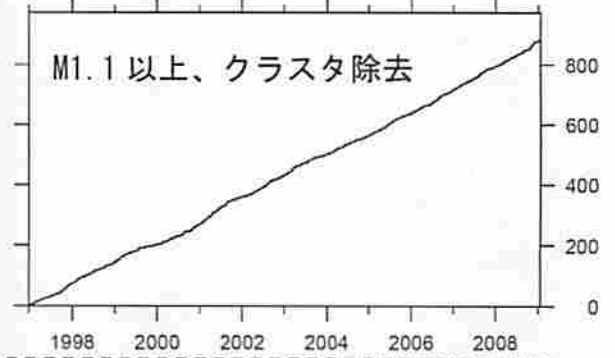
地震活動経過図（規模別）



[M2.0 以上]

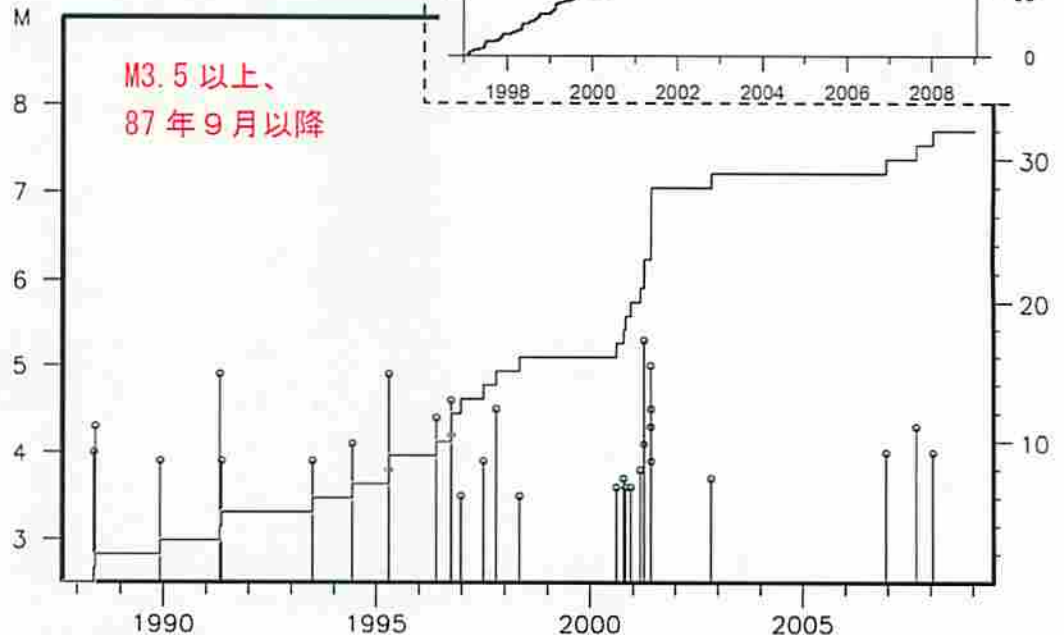


地震回数積算図



[M3.5 以上]

2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数が少ない。そのような状況の中、2006 年 12 月 16 日 M4.0、2007 年 8 月 31 日 M4.3、2008 年 1 月 20 日に M4.0 の地震が発生した。98 年後半～2000 年前半にも静穏な時期があった。M2.0 以上では、2005 年半ば以降やや静穏であったが 2007 年に入って回復。

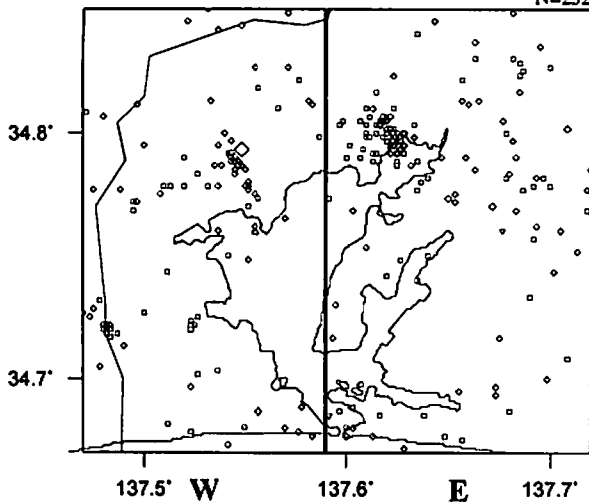


浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/1/1~2009/1/21 M \geq 1.1 *クラスタ除去したデータ

震央分布図

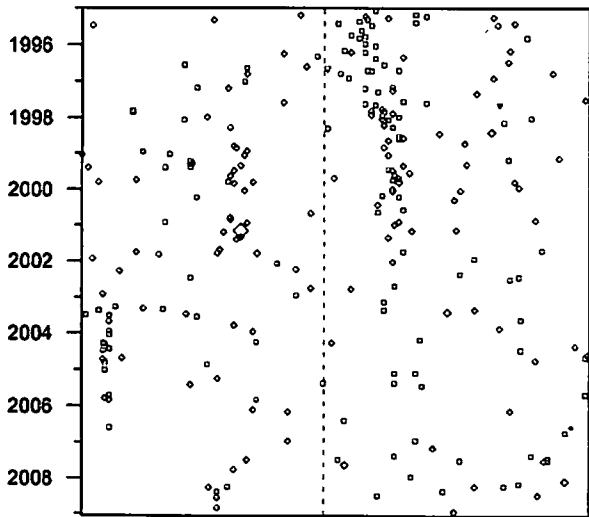
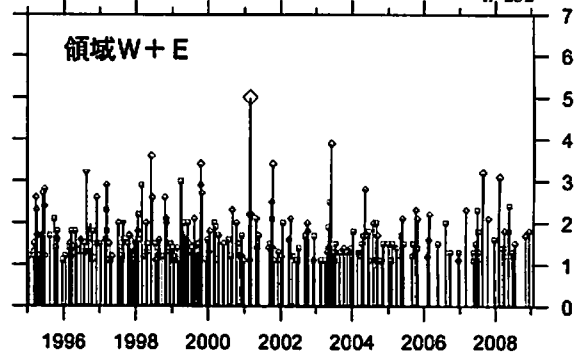
N=252



depth (km)
 M
 ○ 0
 ○ 7.0
 △ 10
 □ 20
 ○ 30
 ○ 40
 ○ 50
 ○ 60
 ○ 70
 △ 80
 □ 90
 ○ 100
 ○ 110
 ○ 120
 ○ 130
 ○ 140
 ○ 150
 ○ 160
 ○ 170
 ○ 180
 ○ 190
 ○ 200
 ○ 210
 ○ 220
 ○ 230
 ○ 240
 ○ 250
 ○ 260
 ○ 270
 ○ 280
 ○ 290
 ○ 300
 ○ 310
 ○ 320
 ○ 330
 ○ 340
 ○ 350
 ○ 360
 ○ 370
 ○ 380
 ○ 390
 ○ 400
 ○ 410
 ○ 420
 ○ 430
 ○ 440
 ○ 450
 ○ 460
 ○ 470
 ○ 480
 ○ 490
 ○ 500
 ○ 510
 ○ 520
 ○ 530
 ○ 540
 ○ 550
 ○ 560
 ○ 570
 ○ 580
 ○ 590
 ○ 600

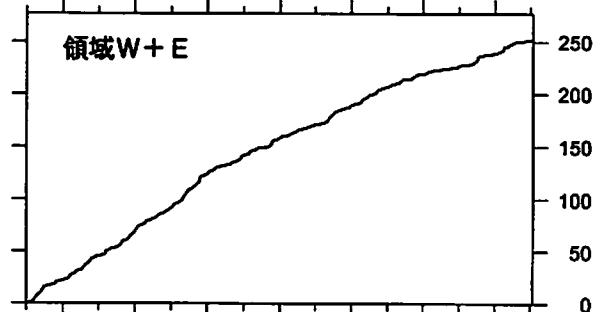
*吹き出しは最近60日以内、M \geq 3.0
 地震活動経過図 (規模別)

n=252

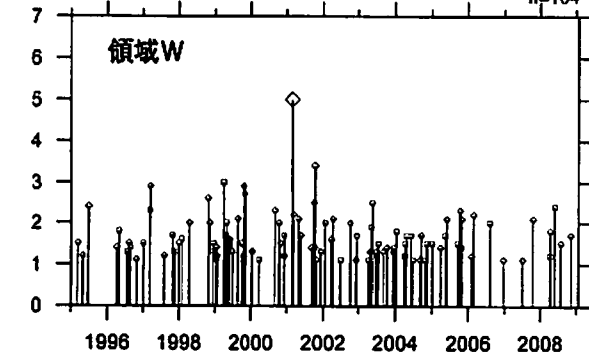


時空間分布図 (東西方向)

地震回数積算図

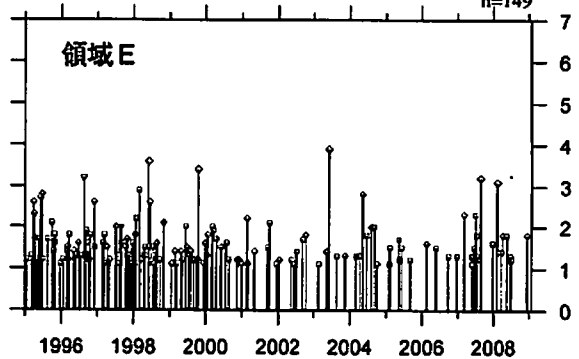


n=104

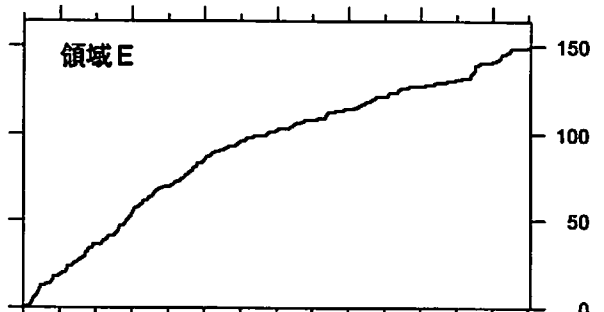
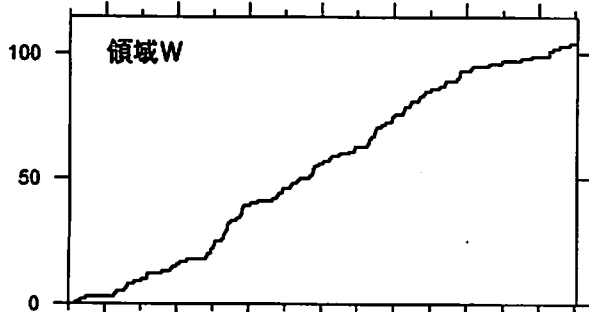


地震活動経過図 (規模別)

n=149

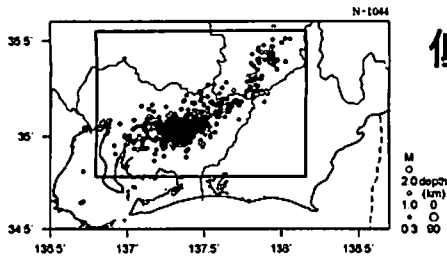


地震回数積算図



2000年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下していた。2007年5月~9月は一旦回復したが、10月以降は再び低下した。そのような状況の中、2008年2月1日に浜名湖の北東でM3.1の地震、2008年5月17日から22日にかけてはやまとまった地震活動が浜名湖南の東岸・西岸で発生した。最近では活動状況が再びやや低調になっている。

低周波地震の震央分布図

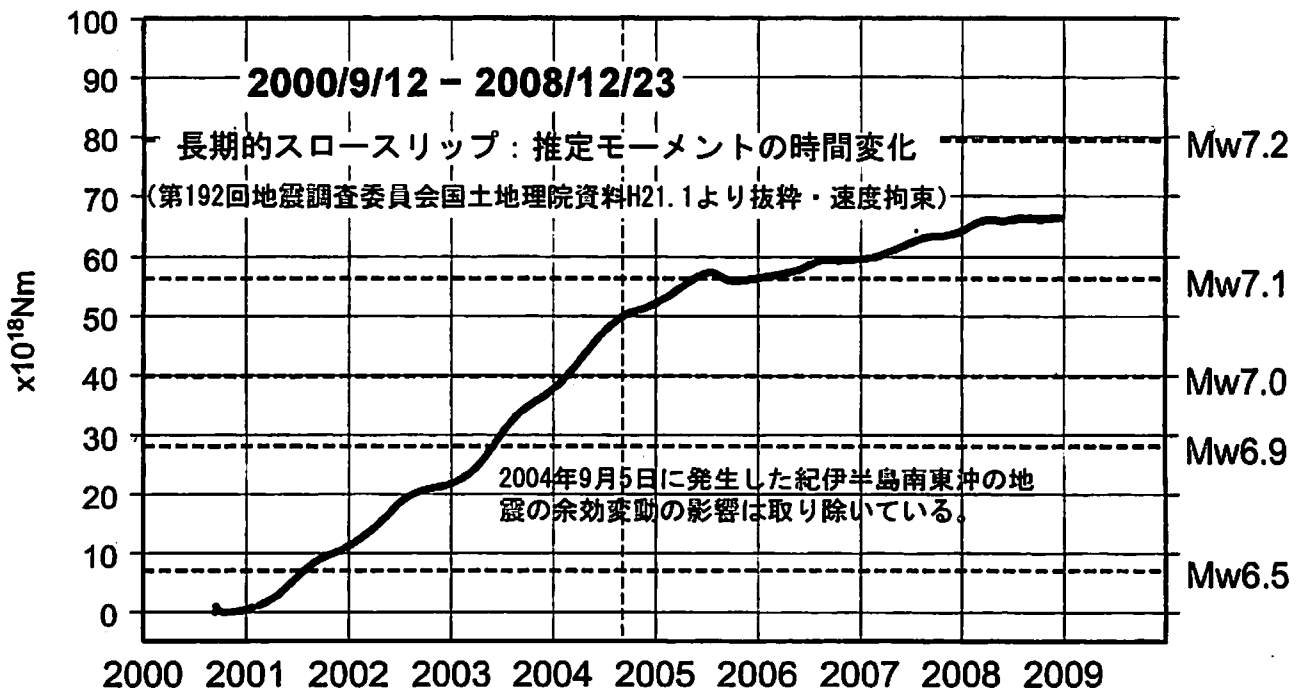
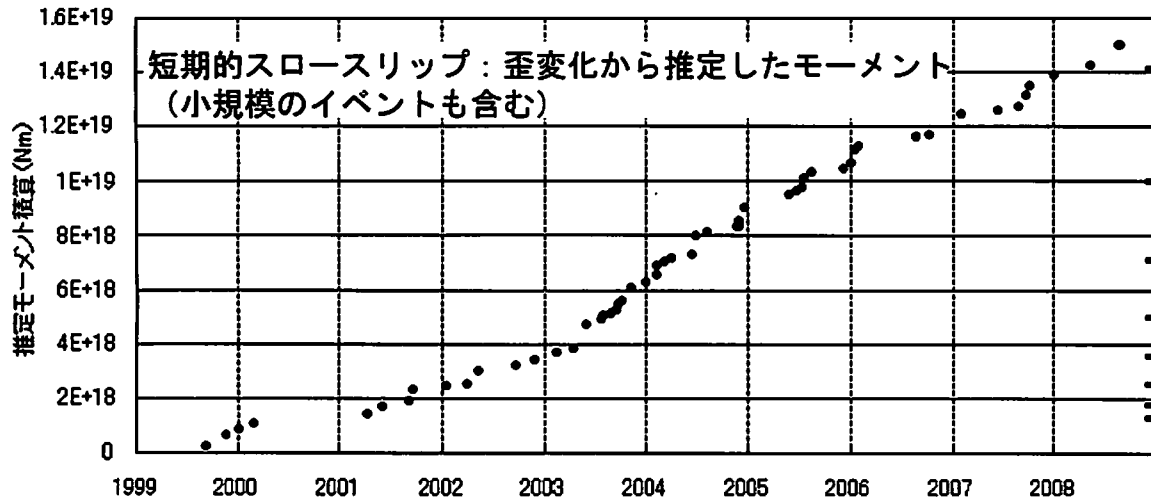
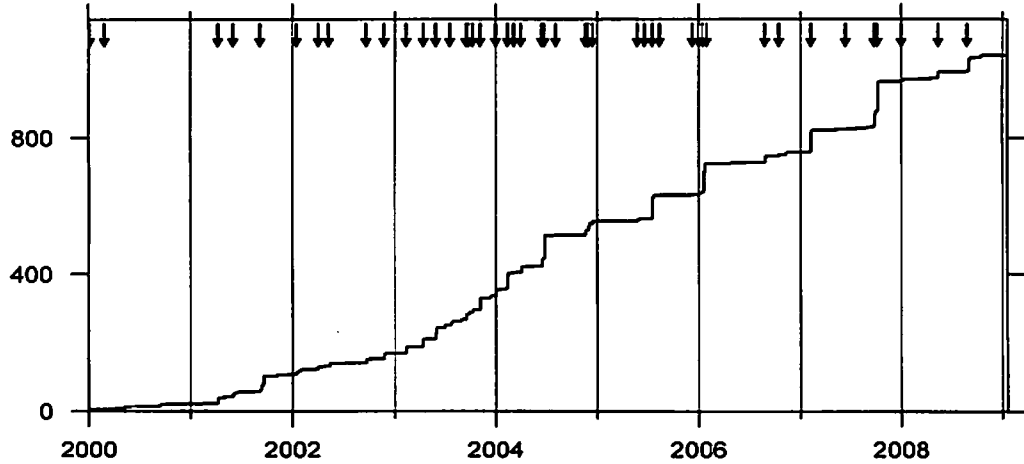


低周波地震活動とスロースリップ

2000/1/1~2009/1/21 M ≥ 0.3

矩形内の地震回数積算図

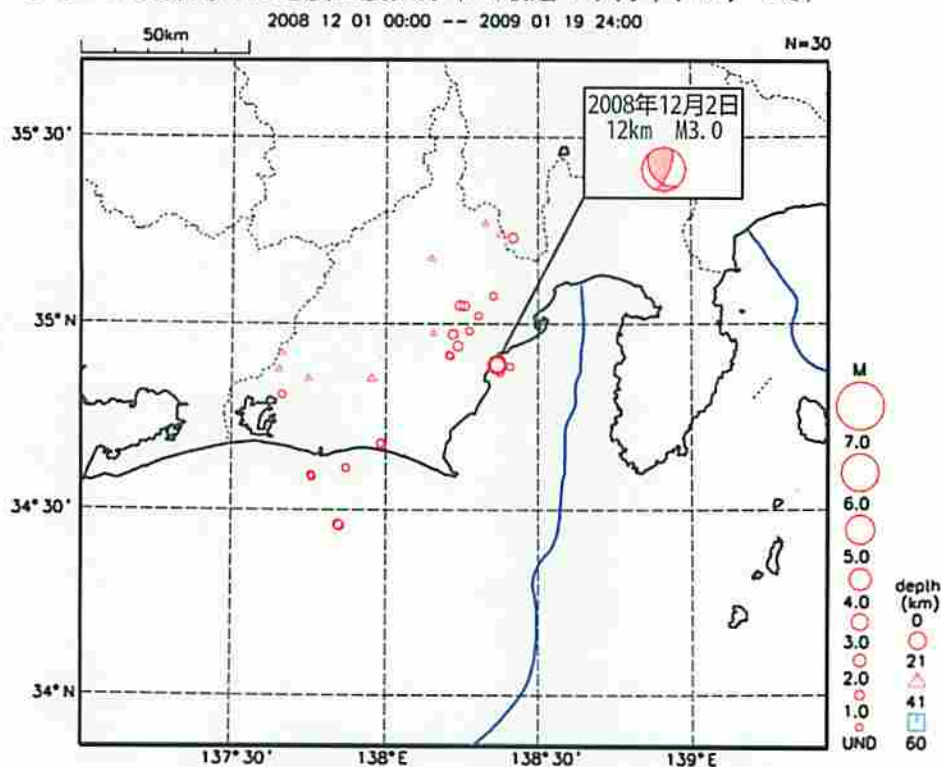
(↓: 短期的スロースリップイベントによる歪変化が見られた時期) [小さな歪変化も含む]



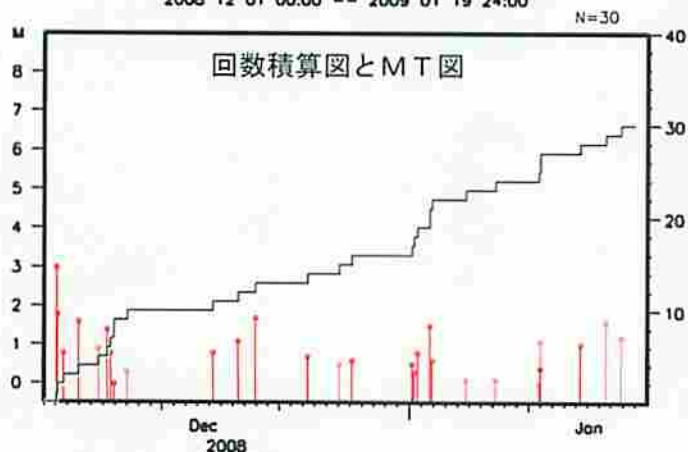
2008年8月25日頃~9月4日、深部低周波地震活動の活発化 (長野県南部~愛知県) と短期的スロースリップの発生が観測された。

プレート境界周辺の地震活動（最近の活動状況）

プレート境界周辺の地震の震央分布（最近1ヶ月半、Mすべて）



2008 12 01 00:00 -- 2009 01 19 24:00

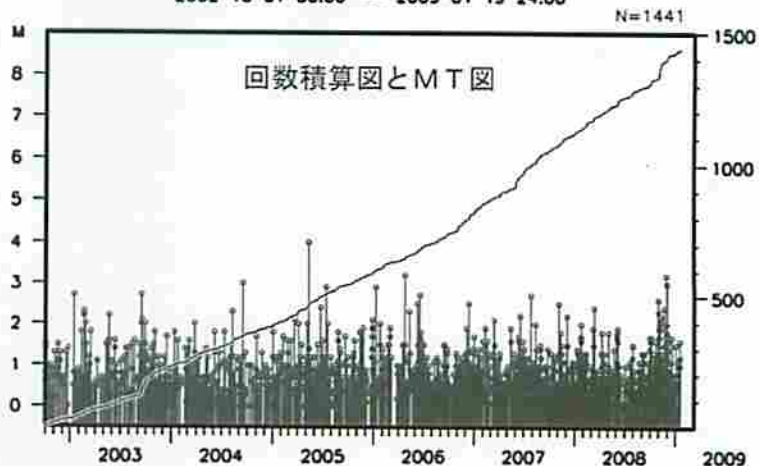


2008年12月初旬には、静岡市駿河区沖で活発な地震活動が見られた。最近は目立った地震活動はない。

プレート境界周辺の地震の震央分布（2002年10月以降、Mすべて）



2002 10 01 00:00 -- 2009 01 19 24:00



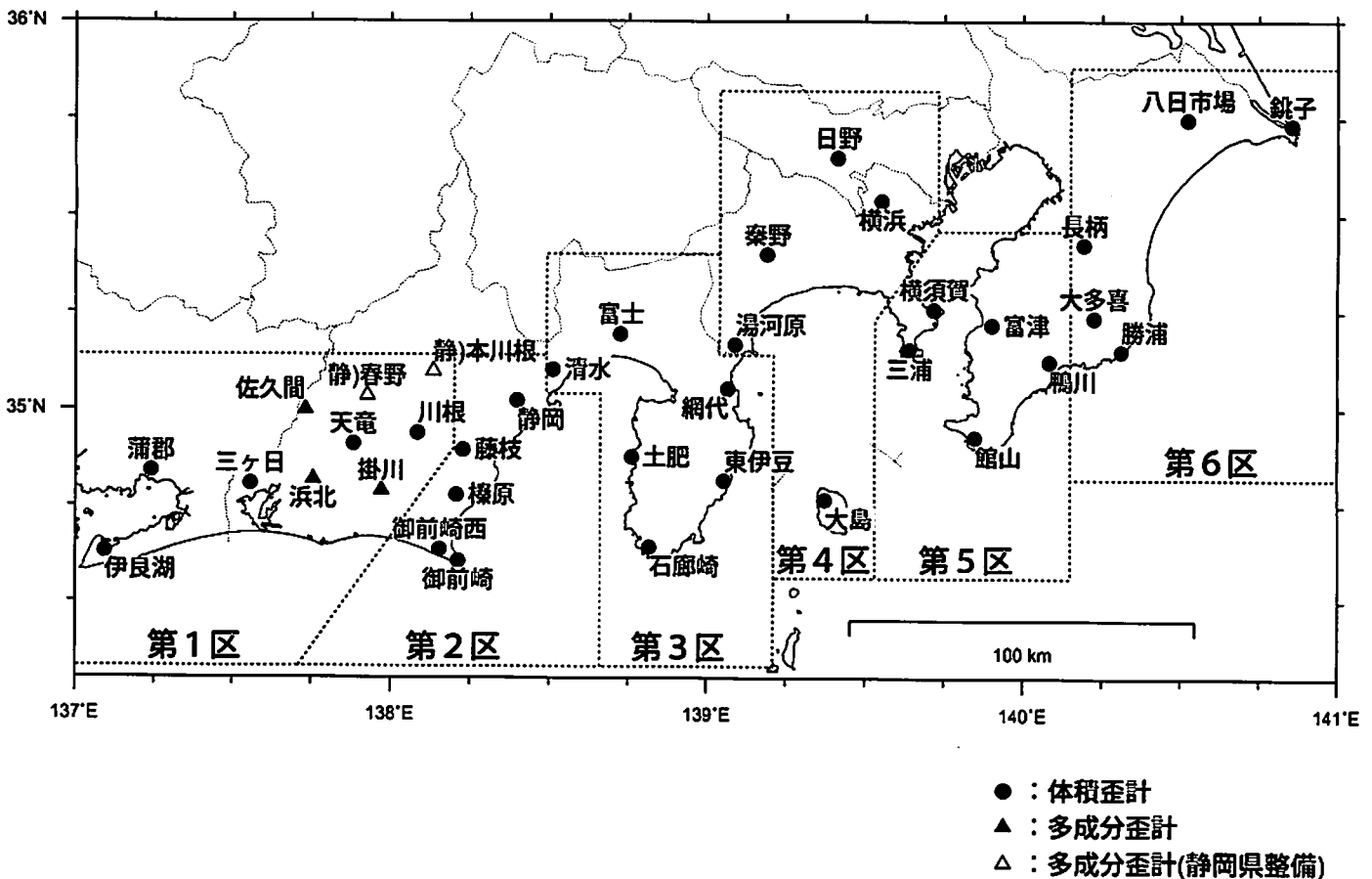
2002年10月以降（Mすべて）で見ると、東海地域のプレート境界周辺の地震活動は、2006年後半ごろからやや活発に見える。

埋込式歪計による観測結果 (2007年7月1日～2009年1月22日)

短期的ゆっくり滑りに起因すると見られる次の地殻変動が歪計観測網で観測された。

- SSE1 : 2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE2 : 2007年10月6日頃から12日頃にかけて観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE3 : 2008年1月1日頃から10日頃にかけて観測された(第260回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE4 : 2008年3月2日頃から7日頃にかけて観測された(第262回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE5 : 2008年5月15日頃から19日頃にかけて観測された(第264回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE6 : 2008年8月25日頃から9月5日頃にかけて観測された(第267回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE7 : 2008年11月11日頃から14日頃にかけて観測された(第270回判定会委員打合せ会資料参照)。
- SSE8? : 2008年11月11日頃から16日頃にかけて観測された(第270回判定会委員打合せ会資料参照)。

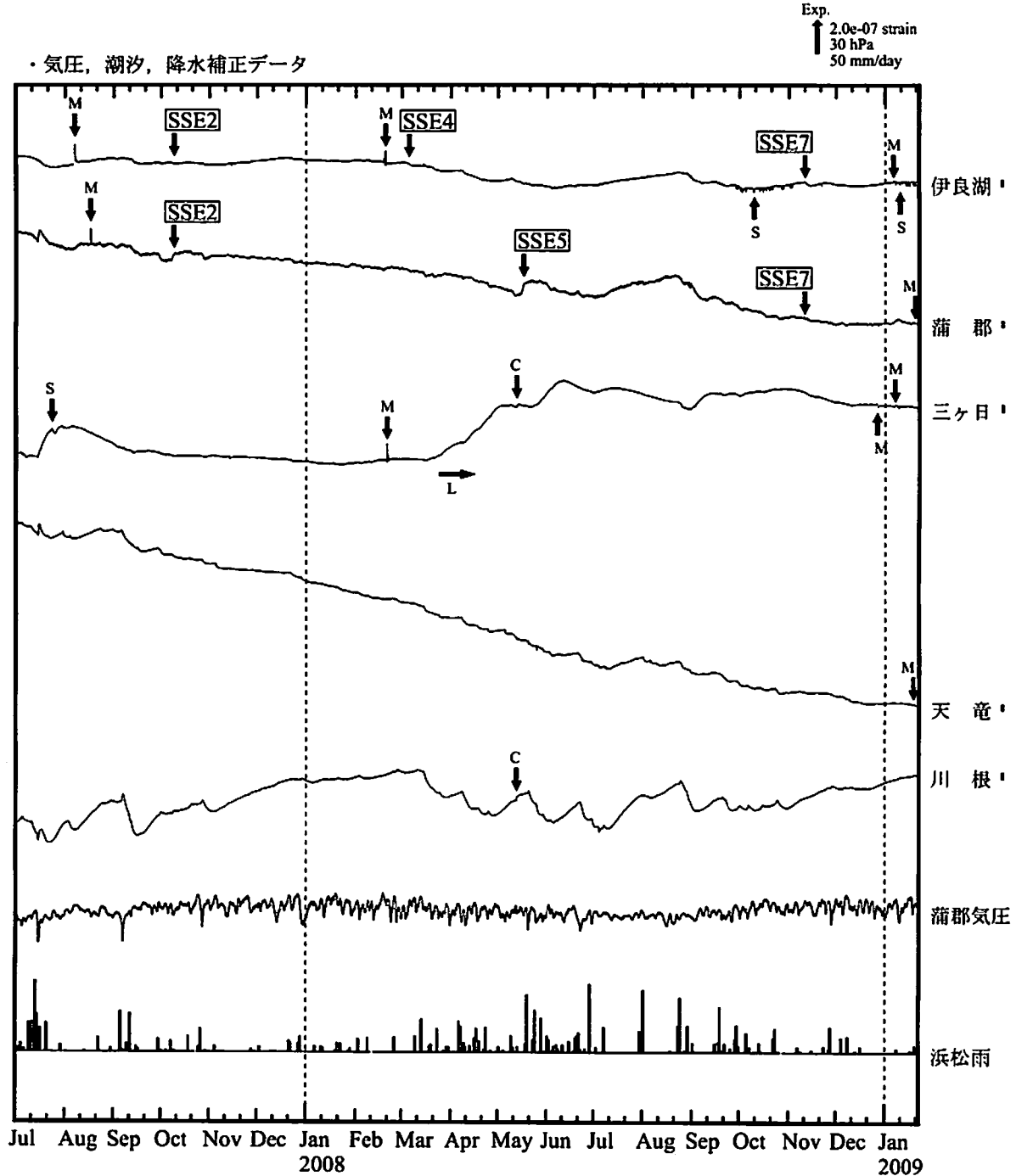
埋込式歪計の配置図



気象庁作成

地殻体積歪変化 時間値 (第1区)

- SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 10. 06-10. 12
- SSE4 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 03. 02-03. 07
- SSE5 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 05. 15-05. 19
- SSE7 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 11. 11-11. 14

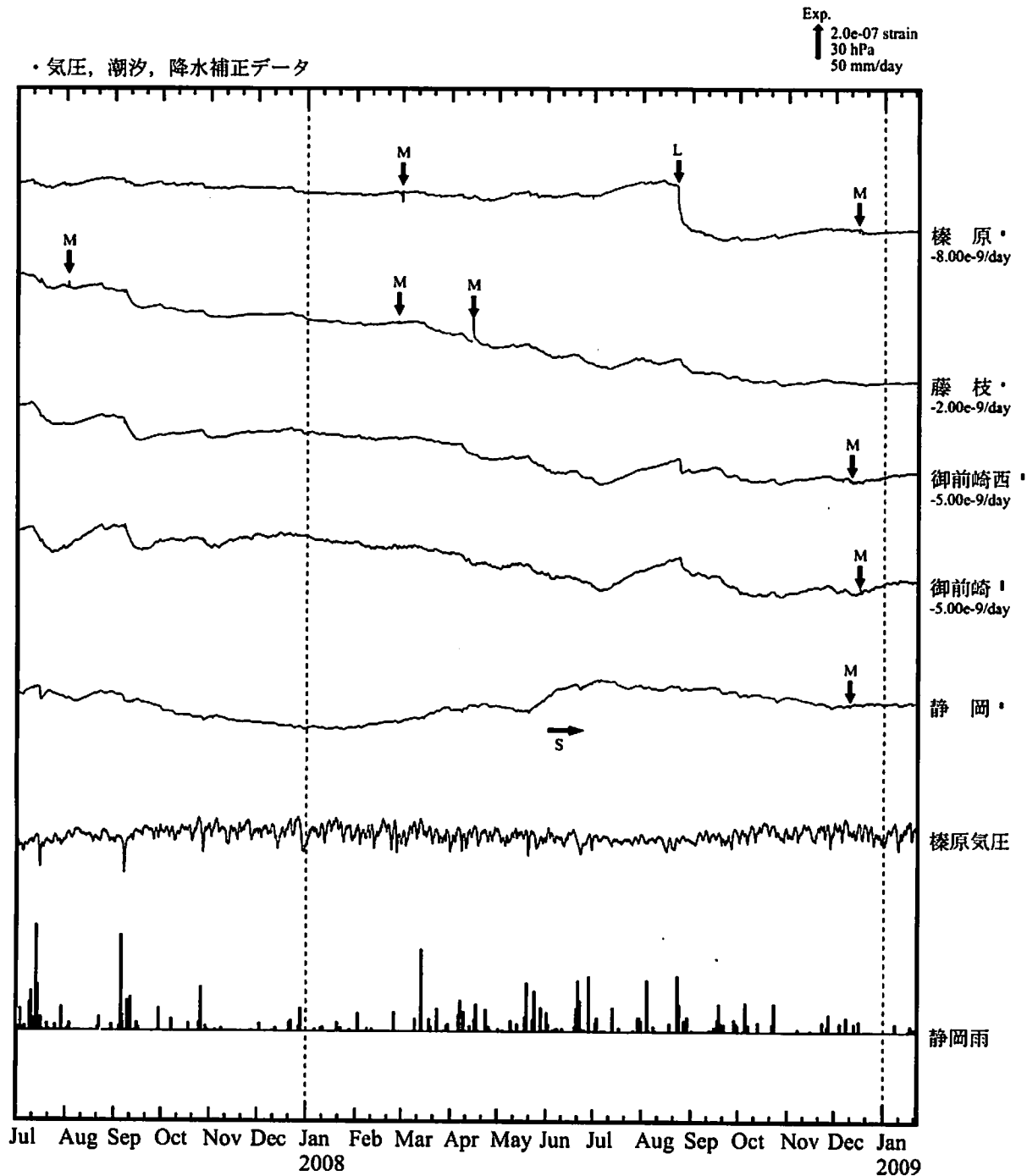


※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

地殻体積歪変化 時間値 (第2区)

・特記事項なし。

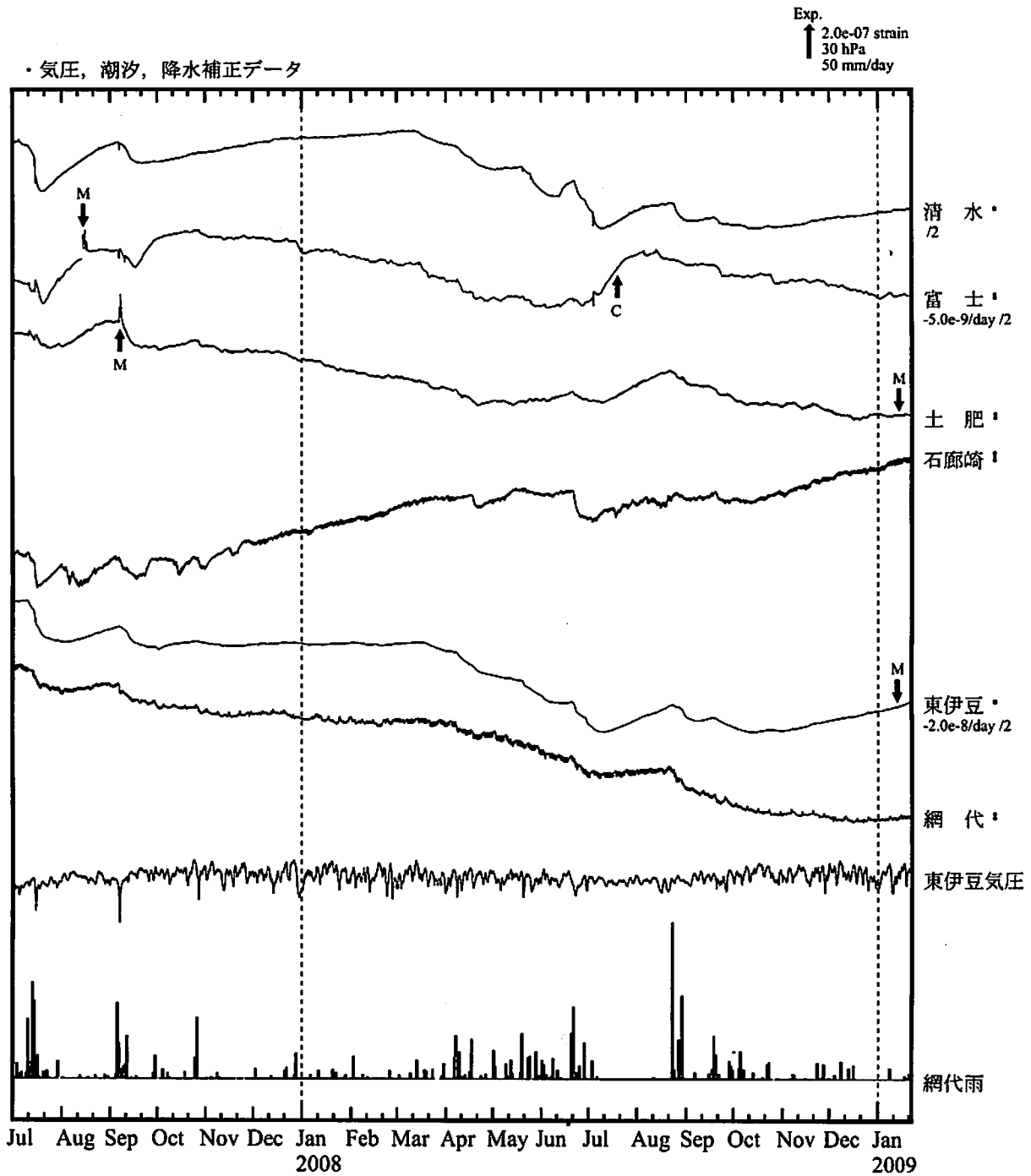


※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- C: 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L: 局所的な変化
- S: 例年見られる変化
- M: 調整

地殻体積歪変化 時間値 (第3区)

・特記事項なし。

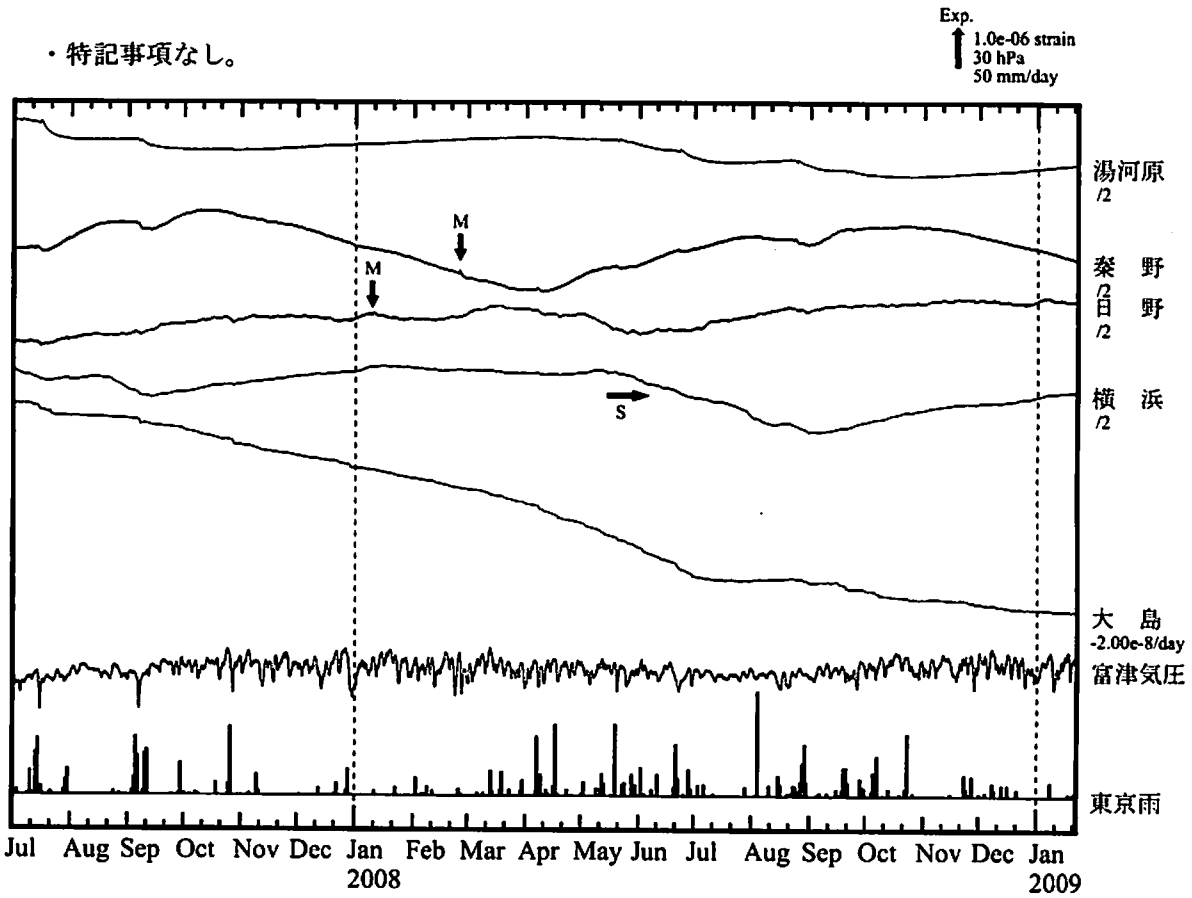


※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- C: 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L: 局所的な変化
- S: 例年見られる変化
- M: 調整

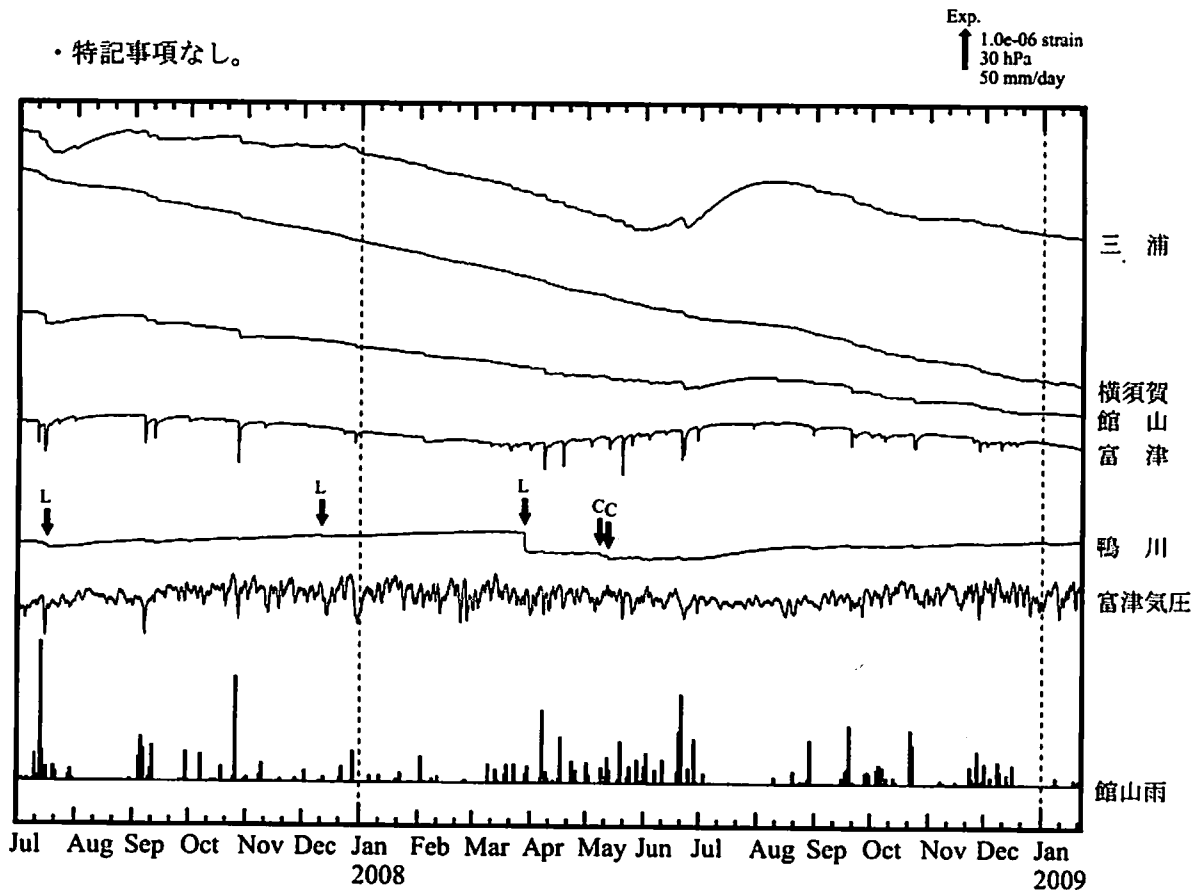
地殻体積歪変化 時間値 (第4区)

・特記事項なし。



地殻体積歪変化 時間値 (第5区)

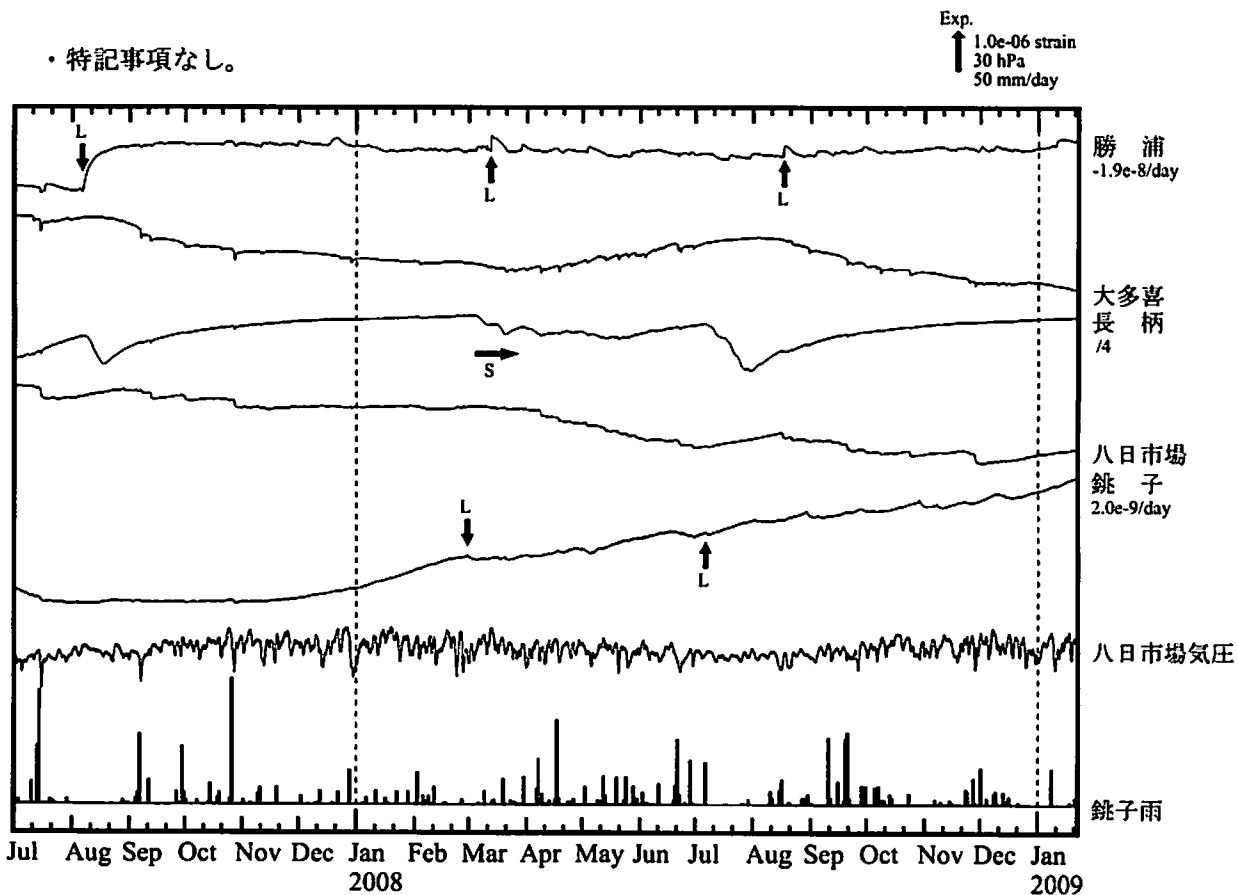
・特記事項なし。



- C: 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L: 局所的な変化
- S: 例年見られる変化
- M: 調整

地殻体積歪変化 時間値 (第6区)

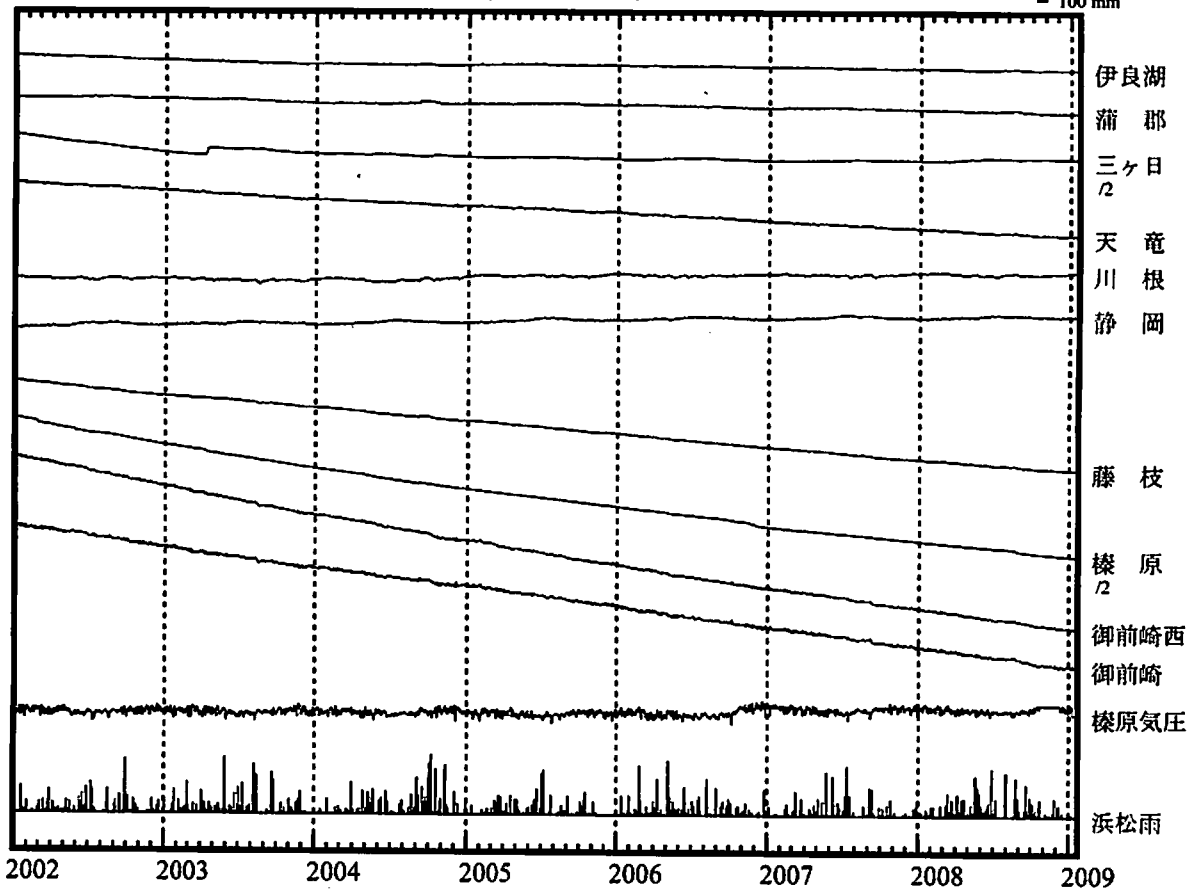
・特記事項なし。



- C: 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L: 局所的な変化
- S: 例年見られる変化
- M: 調整

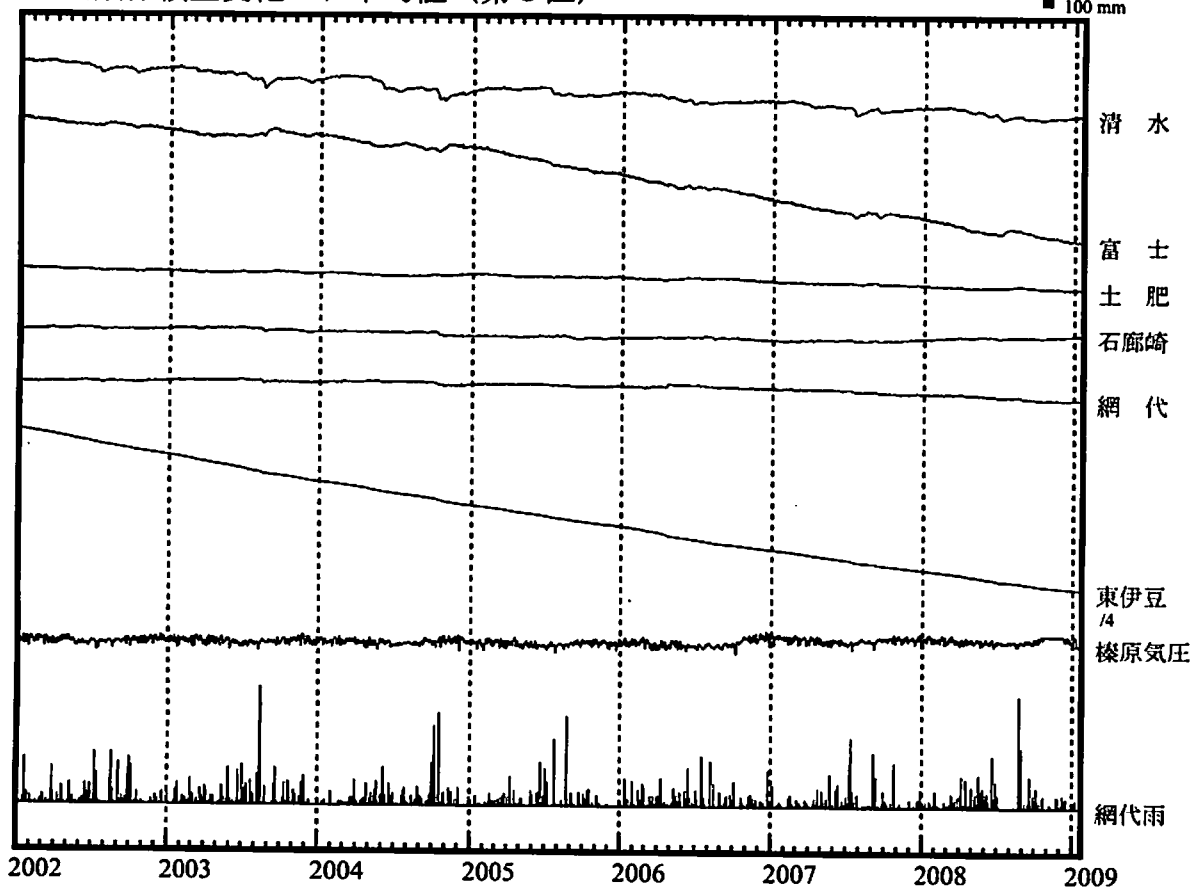
地殻体積歪変化 日平均値 (第1・2区)

↑ 5.0e-06 strain
100 hPa
100 mm

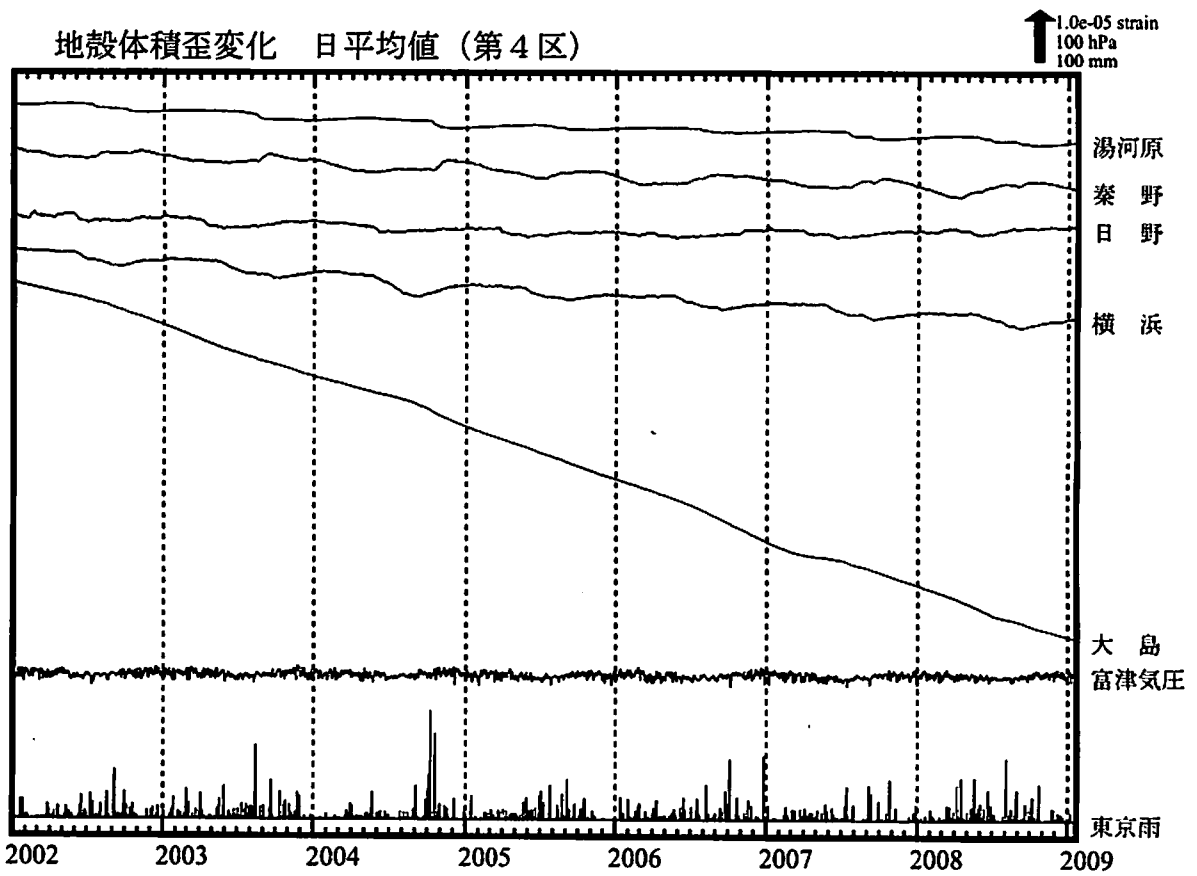


地殻体積歪変化 日平均値 (第3区)

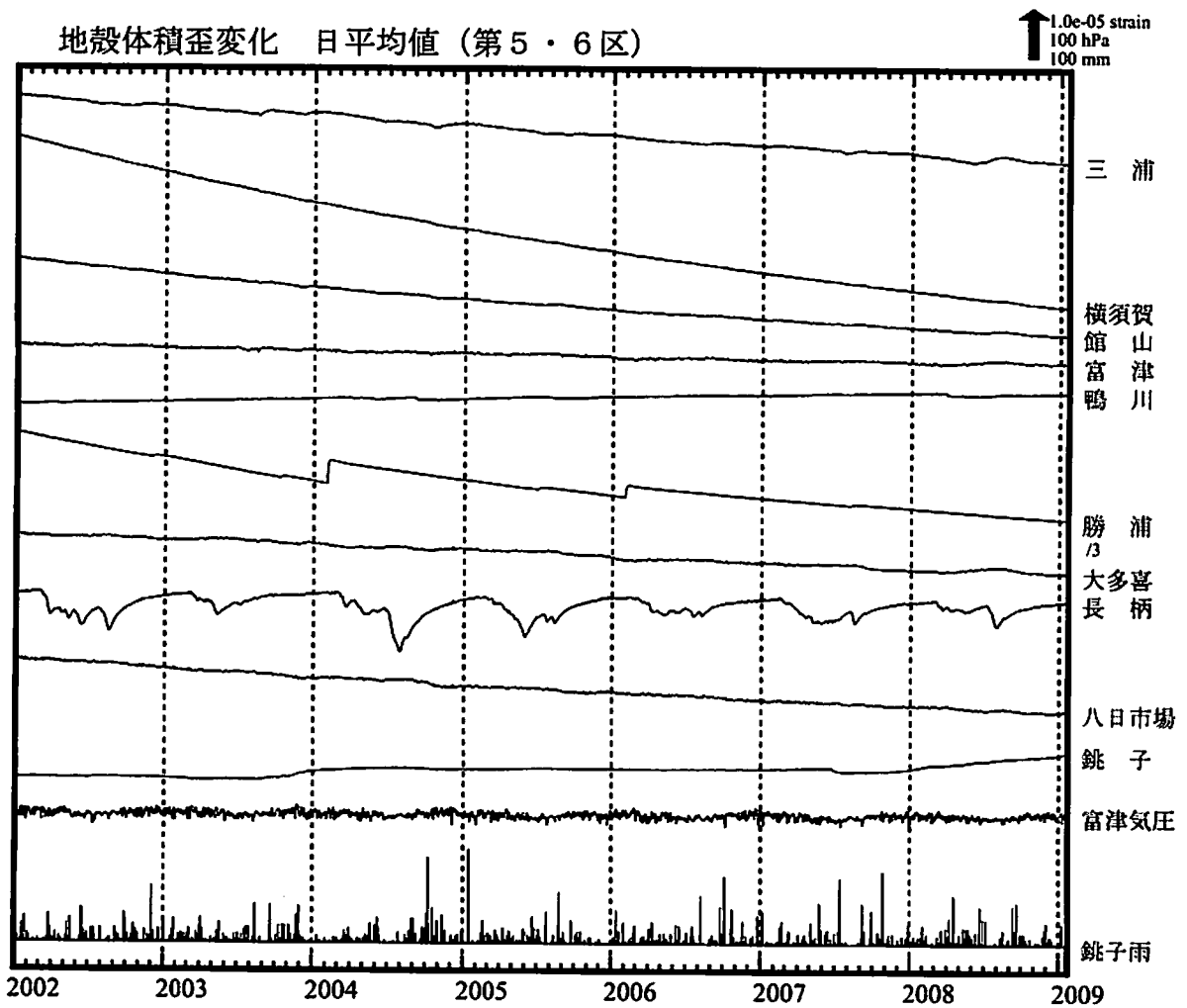
↑ 5.0e-06 strain
100 hPa
100 mm



地殻体積歪変化 日平均值 (第4区)

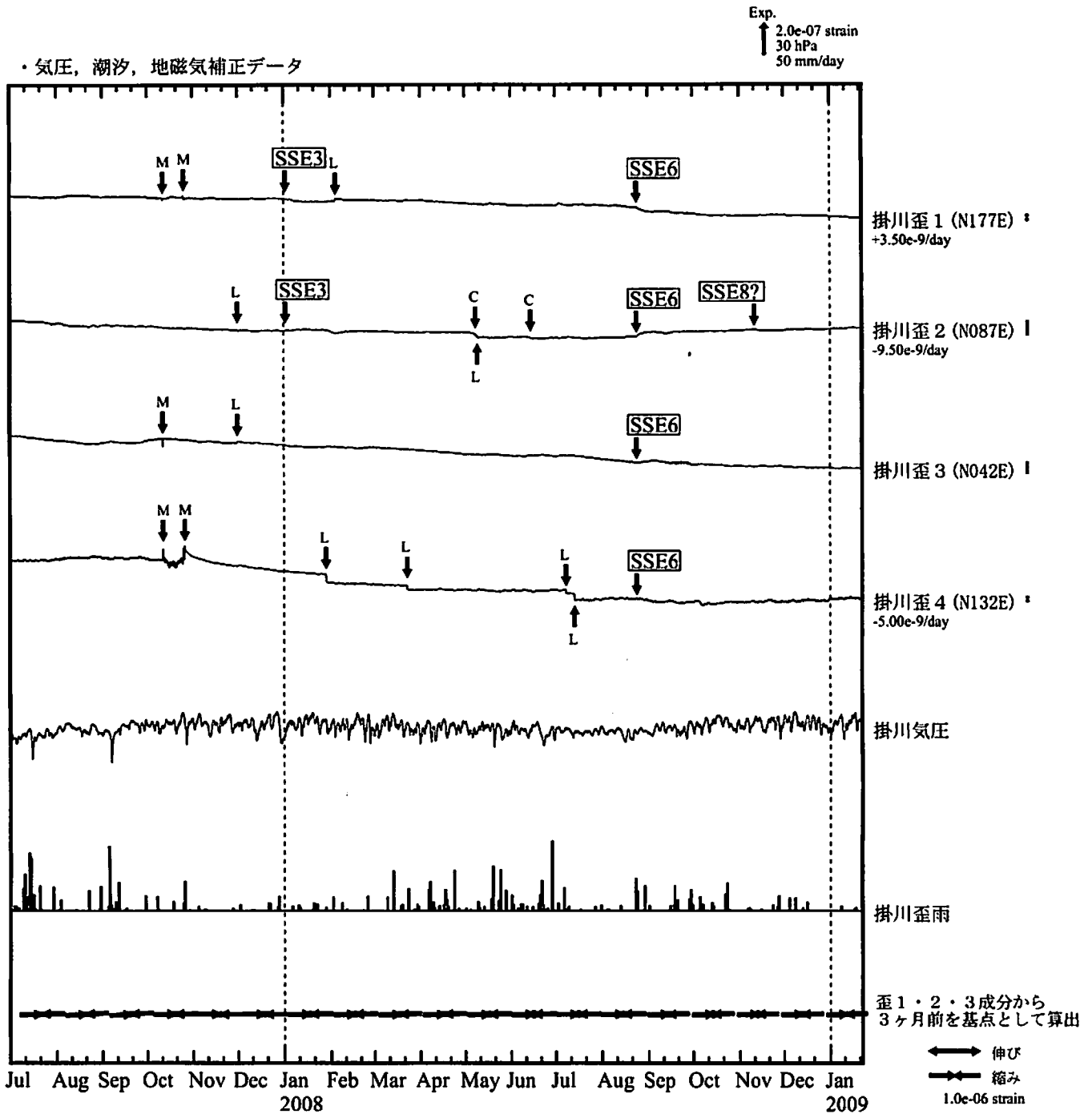


地殻体積歪変化 日平均值 (第5・6区)



掛川歪変化 時間値

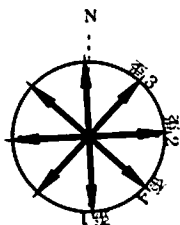
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 01. 01-01. 10
 SSE6 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 08. 25-09. 05
 SSE8? : 短期的ゆっくり滑り? 2008. 11. 11-11. 16



掛川

() 内は測定方位

※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

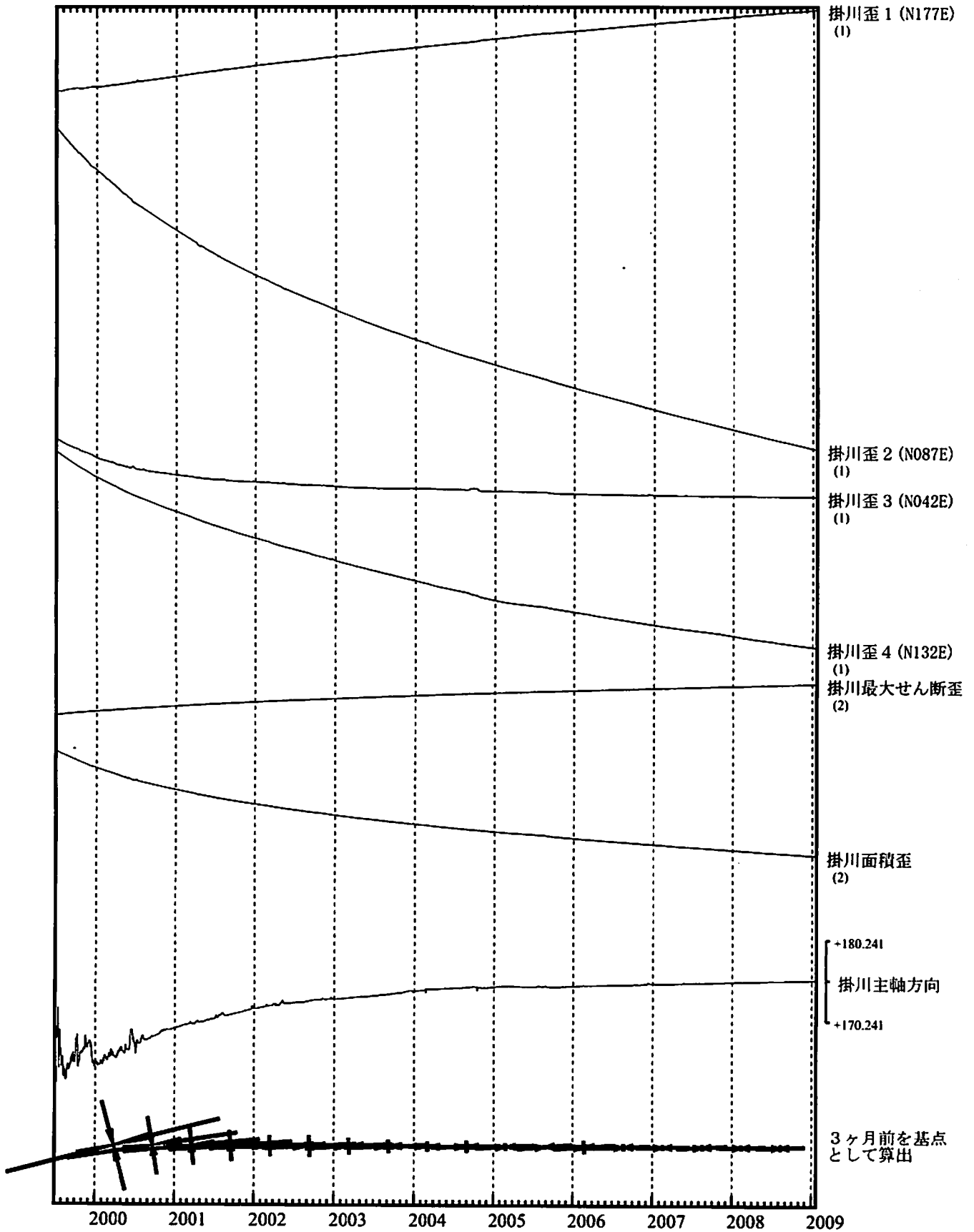


- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

掛川歪変化 日値

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5.0e-06 strain (1)
↑ 2.0e-05 strain (2)

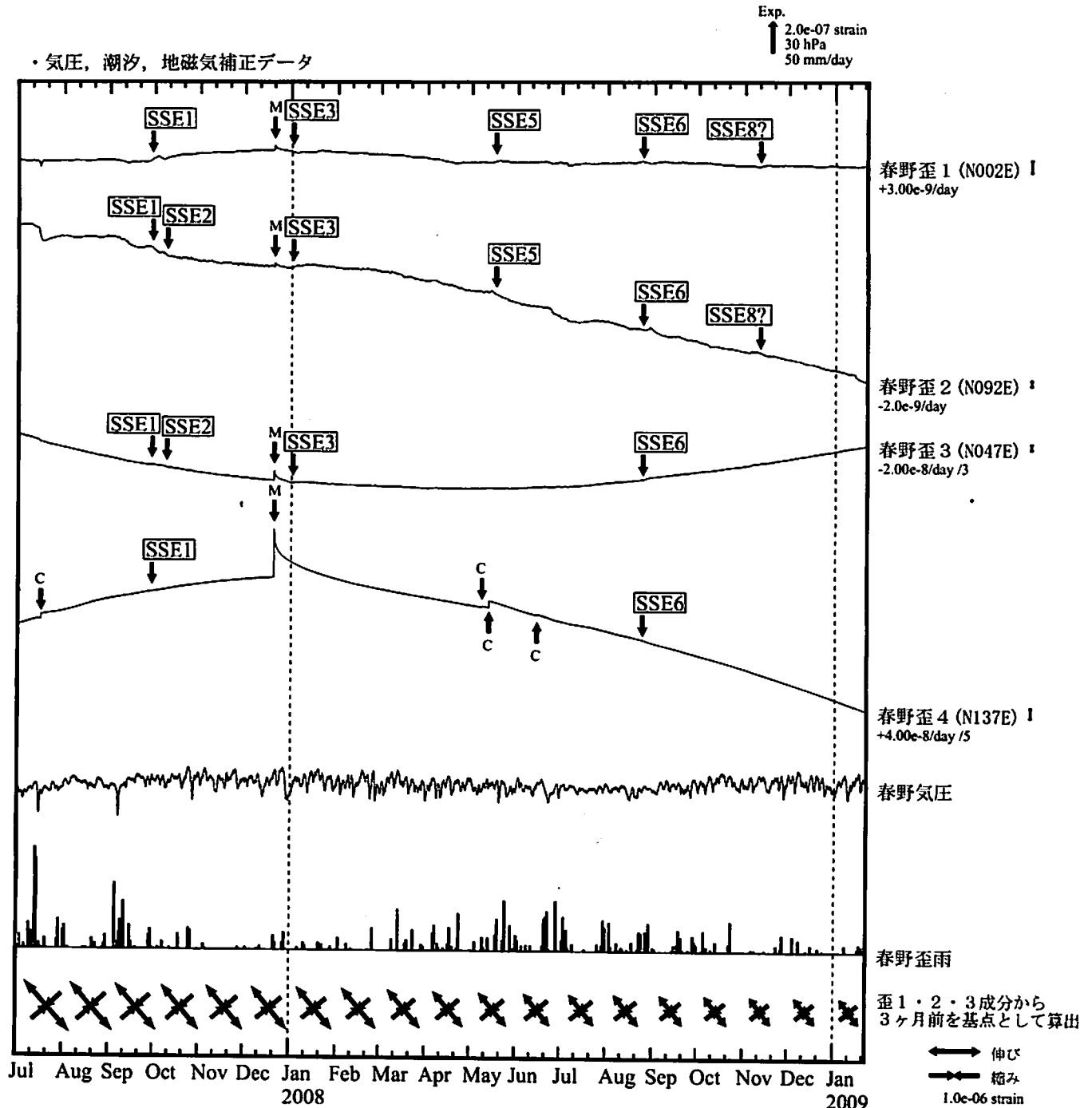


*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応
*最大せん断歪、面積歪および主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

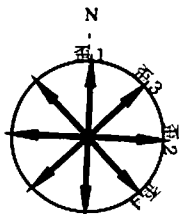
← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

春野歪変化 時間値

- SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 09. 26-10. 02
- SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 10. 06-10. 12
- SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 01. 01-01. 10
- SSE5 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 05. 15-05. 19
- SSE6 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 08. 25-09. 05
- SSE8? : 短期的ゆっくり滑り? 2008. 11. 11-11. 16



春野



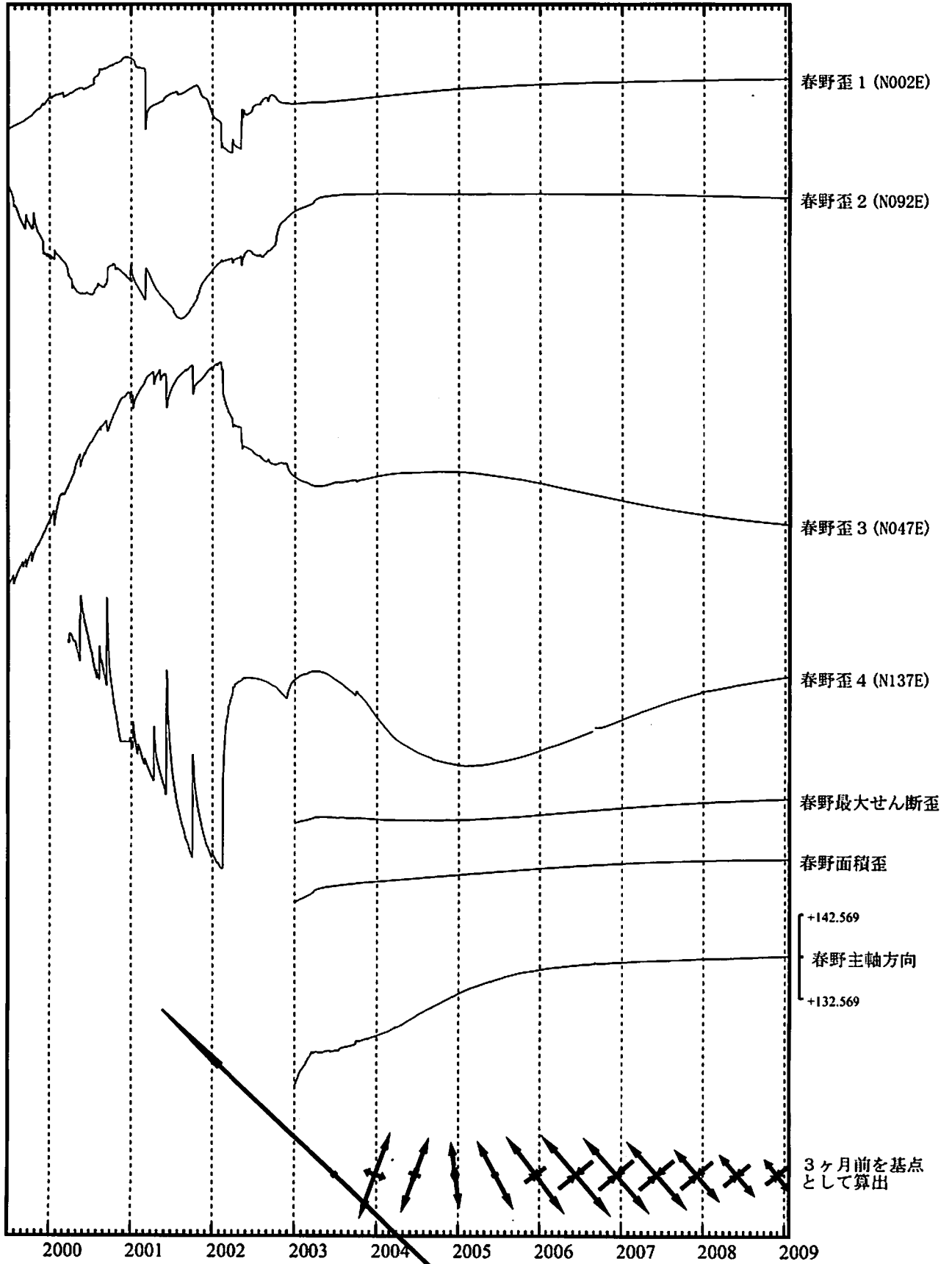
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

春野歪変化 日値

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2003年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 2.0e-05 strain

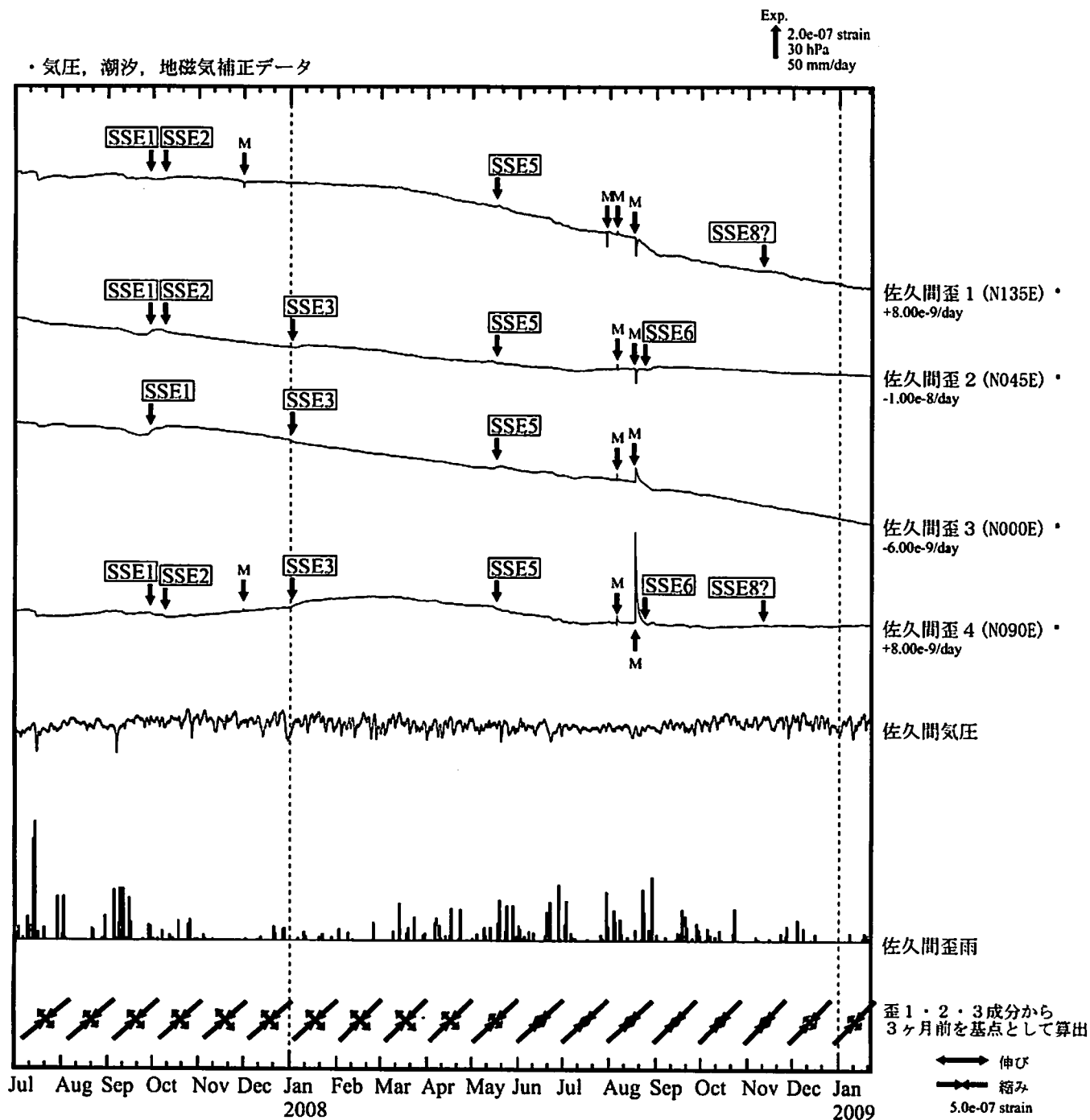


*最大せん断歪、面積歪および主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

⇔ 伸び
⇐⇒ 縮み
1.0e-06 strain

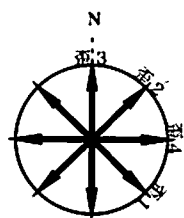
佐久間歪変化 時間値

- SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 09. 26-10. 02
- SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 10. 06-10. 12
- SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 01. 01-01. 10
- SSE5 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 05. 15-05. 19
- SSE6 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 08. 25-09. 05
- SSE8? : 短期的ゆっくり滑り? 2008. 11. 11-11. 16



佐久間

() 内は測定方位



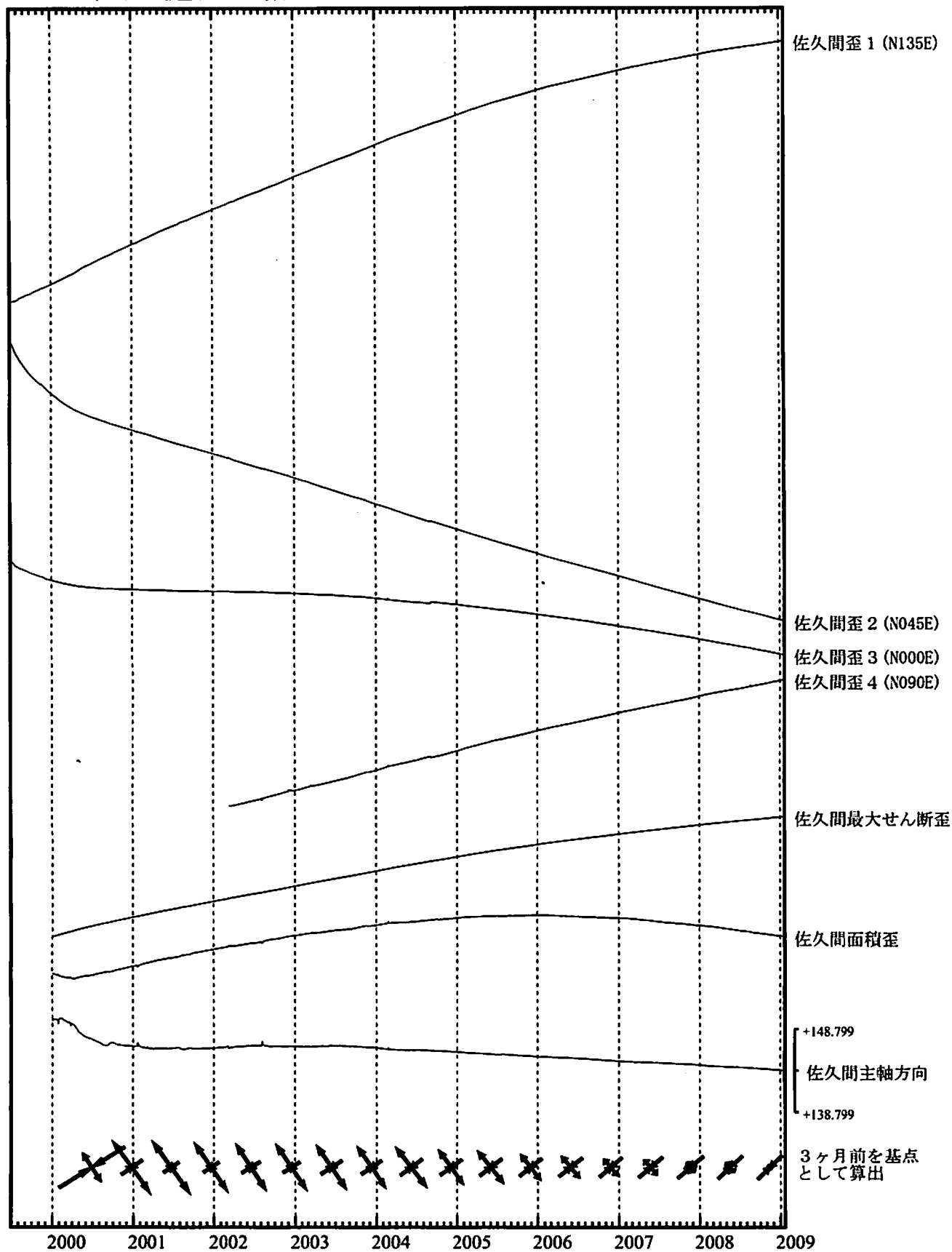
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

佐久間歪変化 (日値)

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5.0e-06 strain

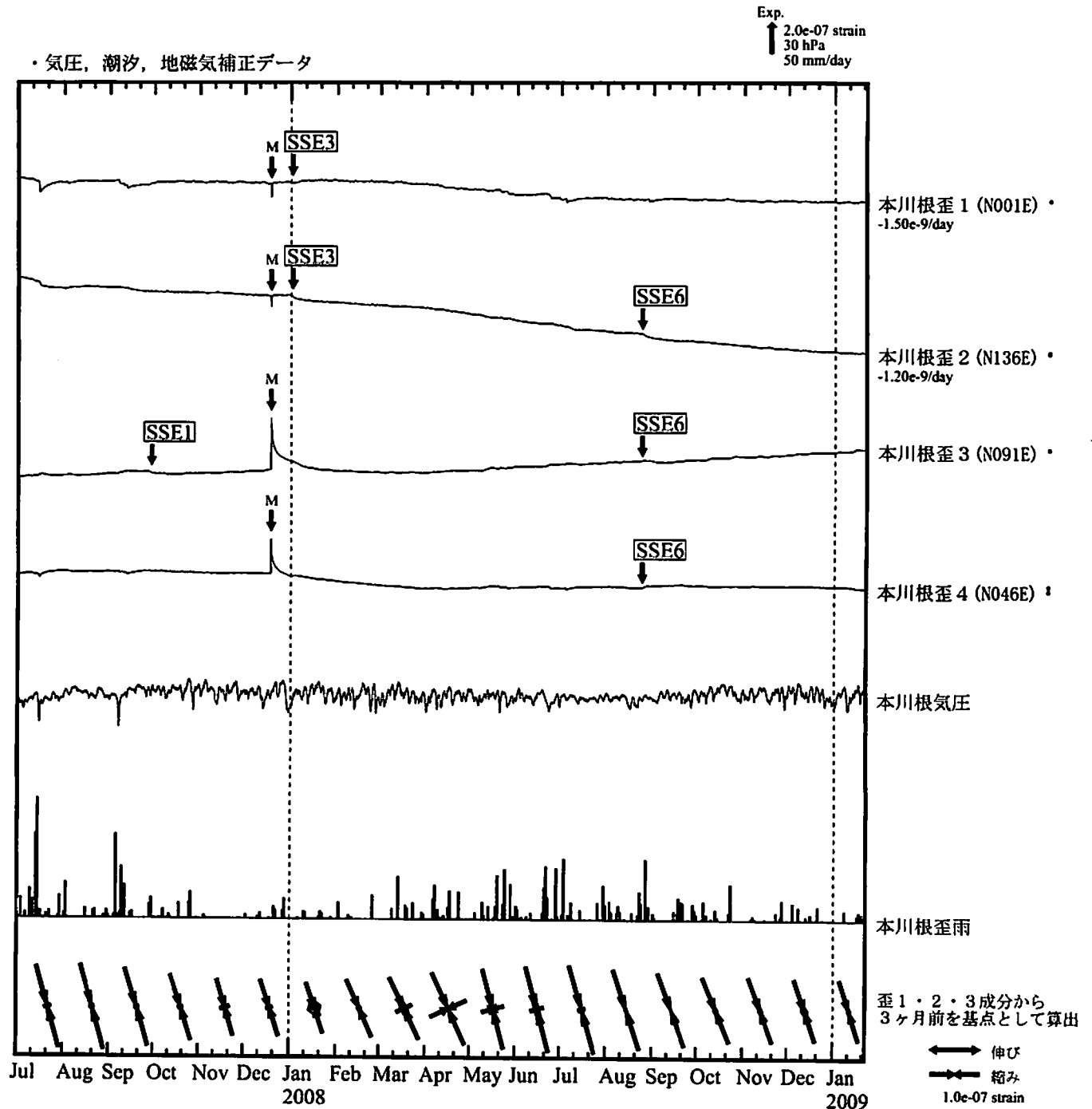


*最大せん断歪、面積歪および主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

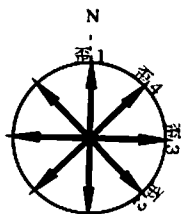
本川根歪変化 時間値

- SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 09. 26-10. 02
- SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 01. 01-01. 10
- SSE6 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 08. 25-09. 05



本川根

※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

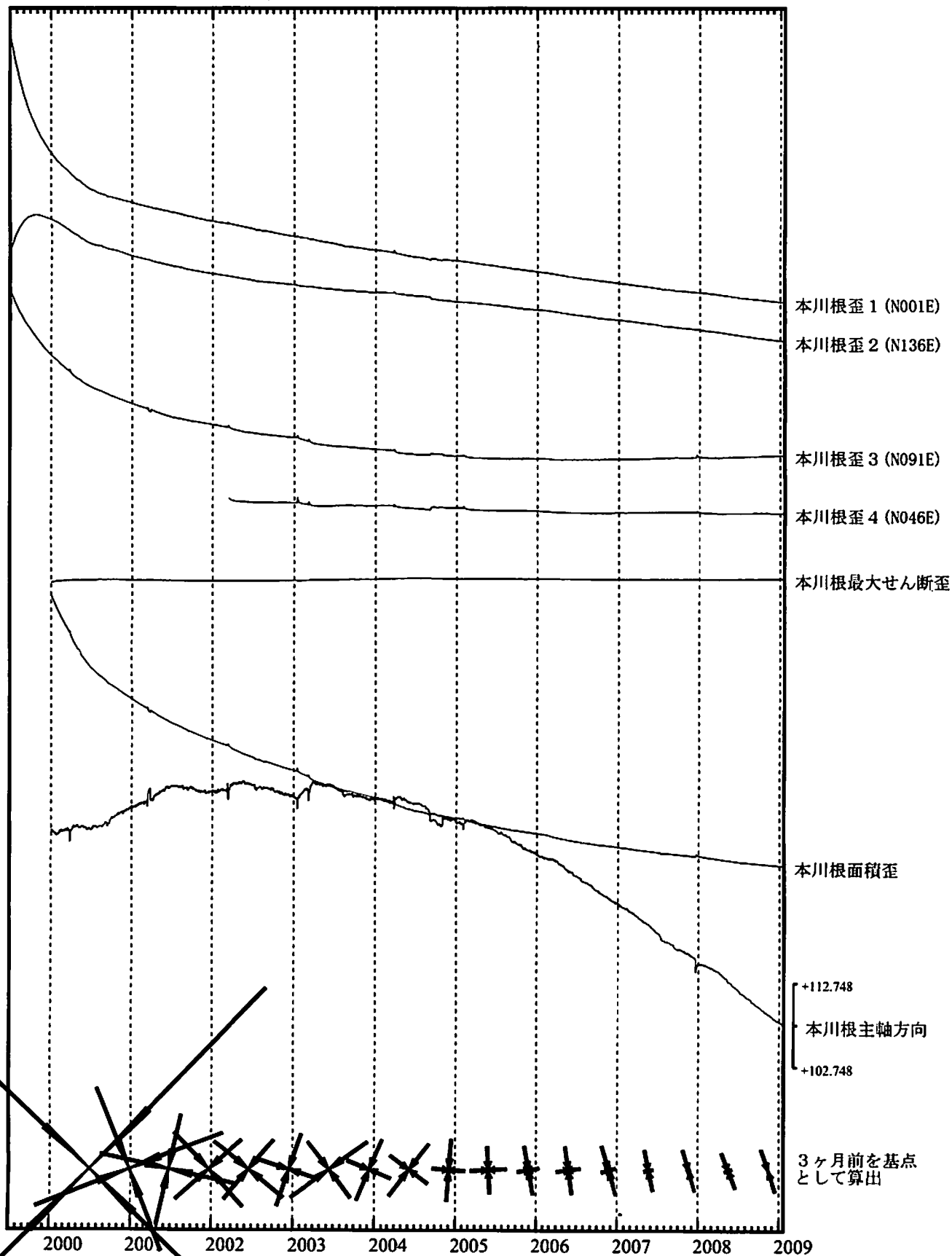


- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

本川根歪変化 日値

・最大せん断歪および面積歪は歪1、2、3の各方向成分から
2000年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 2.0e-06 strain

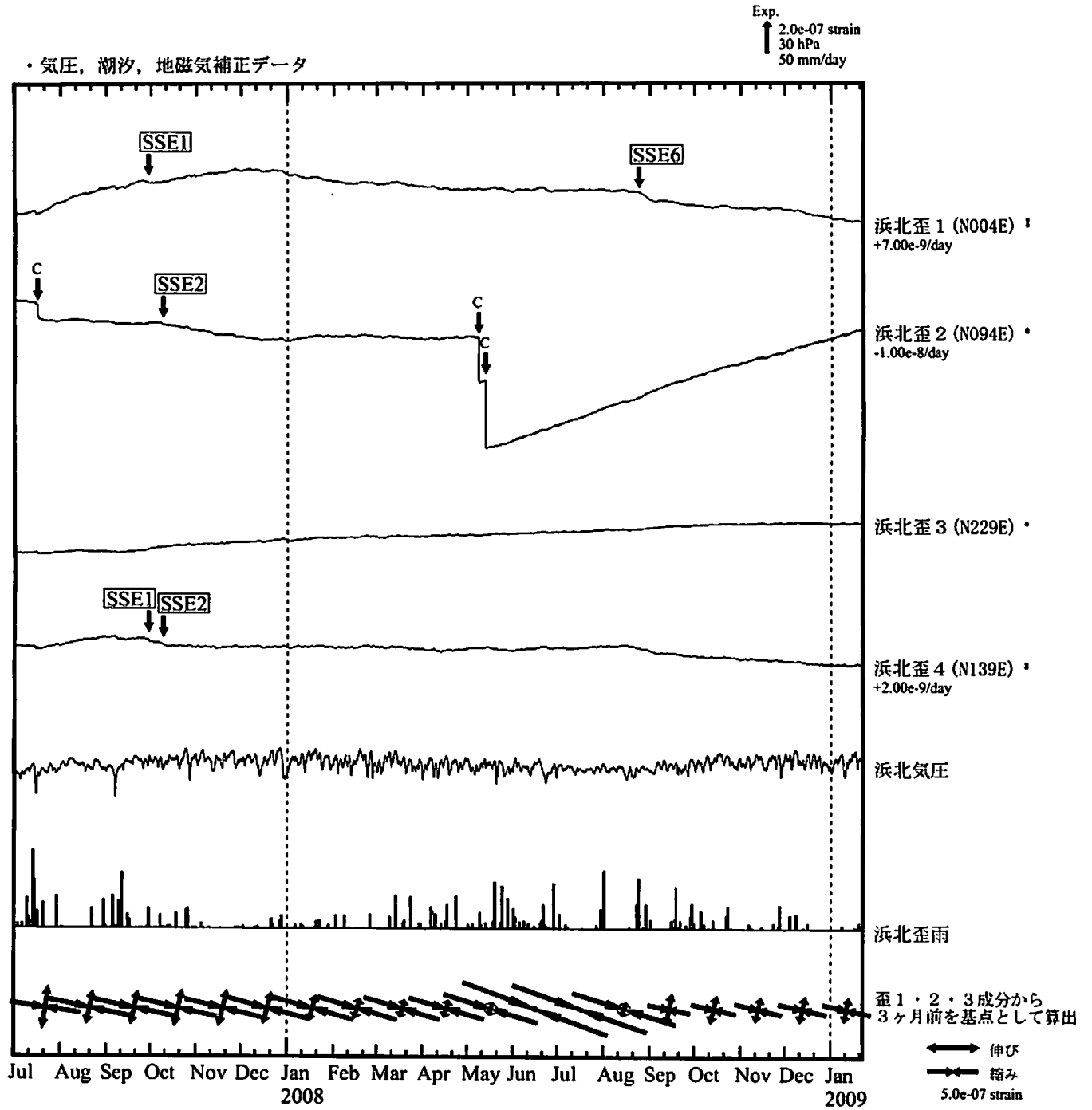


*最大せん断歪および面積歪は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
2.0e-07 strain

浜北歪変化 時間値

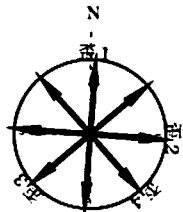
- SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 09. 26-10. 02
- SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2007. 10. 06-10. 12
- SSE6 : 短期的ゆっくり滑り 2008. 08. 25-09. 05



浜北

() 内は測定方位

※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

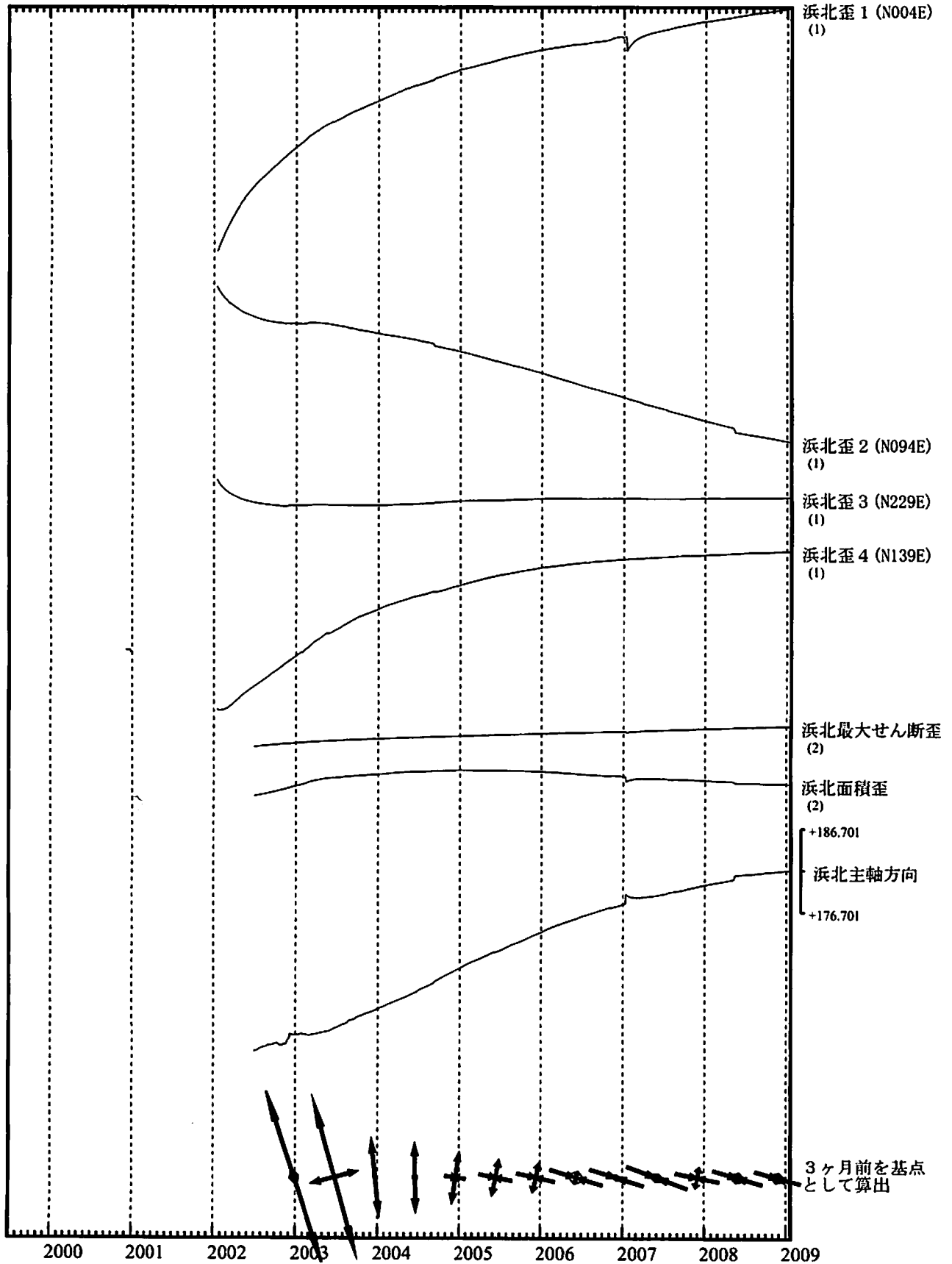


- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

浜北歪変化 日値

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5.0e-06 strain (1)
↑ 2.0e-05 strain (2)



*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応
*最大せん断歪、面積歪および主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

←→ 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain